

「参考設計図面」（この図面は最終図面ではないため、契約後に数量等を変更する場合があります。）

構造設計標準仕様

適用は 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) **工事名称** みえ森林・林業7が7ミ棟建築工事
工事場所 三重県津市白山町二本木3769-1
- (2) **工事種別** 新築 増築 増改築 改築
- (3) **構造種別**
木造(W) 補強コンクリートブロック造(CB) 鉄骨造(S)
鉄筋コンクリート造(RC) 壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)
プレキャスト鉄筋コンクリート造(PCR)
- (4) **階数**
地下 一階 地上 1階 塔屋 一階
- (5) **主要用途** 事務所
- (6) **屋上付属物**
高架水槽 kN キュービクル kN 広告塔 煙突
- (7) **特別な荷重**
エレベーター 人乗り(ロープ式・油圧式) DW kN ホイスト kN
倉庫積載床用 N/m² 受水層 kN
- (8) **付帯工事**
門扉 擁壁 駐輪場 機械式駐車場
- (9) **増築計画** 有() 無
- (10) **構造計算ルート** X方向ルート -(1) Y方向ルート -(1)
- (11) **重要度係数** 1.25 地震力を1.25倍して安全を確かめる

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm ²	品質基準強度 Fq=N/mm ²	スランブ cm	備考
捨てコンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	15	15	18	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18	18	18	
基礎、基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	24	18	
柱・梁・床・壁	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量				比重
デッキ床	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量				比重
無筋コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量	18	18	15	比重
ラップコンクリート	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量				
混和剤					

(2) コンクリートブロック(CB)

A種 B種 C種 厚100 120 150 190

(3) 鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	<input checked="" type="checkbox"/> SD295A	D16 以下	躯体	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手 D16 以下
	<input type="checkbox"/> SD295B			
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19 以上	躯体	<input checked="" type="checkbox"/> ガス圧接継手 D19以上
	<input type="checkbox"/>			
高強度せん断補強筋	<input type="checkbox"/> S R235			<input type="checkbox"/> 特殊継手
丸鋼	<input type="checkbox"/>			()
溶接金網(JIS G 3551)	<input checked="" type="checkbox"/>	φ6	デッキ部	

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
<input type="checkbox"/> S S 400 <input type="checkbox"/> S N490B <input type="checkbox"/> S N400B		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	JIS G 3101
<input type="checkbox"/> B C R295 <input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> B C R295 <input type="checkbox"/> S T K R 400 <input type="checkbox"/> S N 490B		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	JIS G 3136
<input type="checkbox"/> S M490A <input type="checkbox"/> S N490C <input type="checkbox"/> S N490B		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	JIS G 3136
<input type="checkbox"/> S S C 400 <input type="checkbox"/> S N400B <input type="checkbox"/> S T K R 400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	JIS G 3350
<input type="checkbox"/> S S C 400 <input type="checkbox"/> S N400B <input type="checkbox"/> S T K R 400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	JIS G-3466

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

(5) ボルト

- 高力ボルト
普通:F8T 特殊:S10T 認定品(M12 M16 M20 M22 M24)
- 中ボルト 高力ボルトすべり係数試験 要 否
M M 高力ボルト導入張力確認試験 要 否
- アンカーボルト
S S 400 A B R 400 M L = mm ナット(シングル、ダブル)
S S 400 A B R 400 M L = mm ナット(シングル、ダブル)
S S 400 A B R 400 M L = mm ナット(シングル、ダブル)
- 頭付スタッドボルト
φ = mm 使用箇所(柱 大梁 小梁)
- (6) **屋根、床、壁** 【使用箇所】
A L C版 厚 H = 厚
折版 H = 厚
特殊デッキプレート

3. 地盤

- (1) **地盤調査資料**
有(敷地内 近隣) ボーリング試験 平板載荷試験 水平地盤反力係数の測定
液状化判定 現場透水試験 土質試験
- 無(調査予定 有 無)
- (2) **地盤調査計画**
ボーリング調査 静的貫入試験 標準貫入試験 試験場(支持層の確認)
土質試験 平板載荷試験 スウェーデン式サウンディング試験
- (3) **地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。**
- (4) **ボーリング標準貫入値、土質構成** (基礎・杭の位置を明記すること)

深度	土質	N値	標準貫入試験						調査地番
			10	20	30	40	50	60	
0									
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									

4. 地業工事

(1) 直接基礎

- ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験掘 有 無
深さ GL - 0.85~1.50 m 支持層 - 砂礫層(基礎下地盤補強)
長期許容支持力度 25 kN/nf 載荷試験 有 無

(2) 杭基礎

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PRC	PRC (<input type="checkbox"/> I種 <input type="checkbox"/> II種 <input type="checkbox"/> III種)	<input type="checkbox"/> 打ち込み	
<input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種)	<input type="checkbox"/> 埋込み(ﾌﾞﾚｯｷﾝｸﾞ工法)	
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SKK400	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> S C杭	<input type="checkbox"/> JIS <input type="checkbox"/> STK490	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc N/mm ² スランブ セメント量 kN/nf ² 鉄筋 主筋 SD H O O P S D	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 拉底杭 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース	拉底杭 日本建築センター認定 第 号 年 月 日
		<input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 深礎 <input type="checkbox"/> 機械掘	

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書
試験杭 (有・無(本杭兼用)) (打ち込み・載荷) 本

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

- コンクリートはJIS認定工場の製品とし、施工に関してはJASS5(2018)による。
- 耐久設計基準強度 Fd 短期 標準 長期 超長期
- セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
- 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を1回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
- 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

- 構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、標準養生供試体によることを原則とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
- また、打ち込み量が150m³をこえる場合は、150m³ごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。

- ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技師または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄筋

- 鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASS5(2018)による。
- 高強度せん断補強筋は、JIS G3137に規定されるD種1号適合品とする。
- 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
- D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
- ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を越えるときには、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は5本以上(超音波試験の場合は30箇所以上)とする。
- 外観検査 有 無、引張試験 有 無、超音波試験 有 無
- 柱の帯筋(H O O P)の加工方法は、H型(タガ型) W型(溶接型) S型(スパイラル型)とする。
- コンクリート及び鉄筋の試験は、「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
- 試験機関名 (都知事登録第 号)
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。
- コンクリート及び鉄筋の試験は、公的機関、又は経済産業大臣が認定した試験事業者の試験機関で行うこと。

(3) 型枠

- 材料 合板厚 12m/mを標準とする。 施工はJASS5による。

型枠存置期間

種類 部位 セメントの種類 存置期間 平均気温	せき板				支柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下			
コンクリート	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
5℃~15℃	3	5	6	10	12	25	28	
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの圧縮強度	5.0N/mm ²		設計基準強度の50%		設計基準強度の85%			100%

- 注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
- 注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
- 注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4 盛りかえ後の支柱顶部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は、工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

- 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
- 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
-
- (2) **工事監理者の承認を必要とするもの**
製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書
認定または登録工場(グレード 登録 都登録 ランク)
材料規格証明書または試験成績書
鋼材 高力ボルト 特殊ボルト 頭付スタッド
社内検査表
- (3) **工事監理者が行う検査項目**
(印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
原寸検査 組立・開先検査 製品検査
建方検査

(4) 接合部の溶接は下記によること

- 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱(建築構造設計指針第12章)
- 日本建築学会「溶接作業基準、同解説1、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
- 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

(5) 接合部の検査

- 溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)
- 超音波探傷試験

溶接区分	AOQL(%)	検査水準	備考
現場溶接			・全数試験
工場溶接	<input type="checkbox"/> 2.5 <input type="checkbox"/> 4.0	<input type="checkbox"/> 6	

注) 現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査を行うこと。

注) 現場溶接は、超音波探傷試験を100%行うこと。

- 高力ボルトは「S10T」または「JIS B1186の高力ボルト」とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
- 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。
- 告示1464号に基づき、「突合せ継手の食い違い・仕口のずれの検査・補強マニュアル」を適用する。

(6) 防錆塗装

- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めのペイントは、JIS K5674、2回塗りを標準とする。
- 現場における高力ボルト接合部及び接合部の築地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

-

7. 設備関係

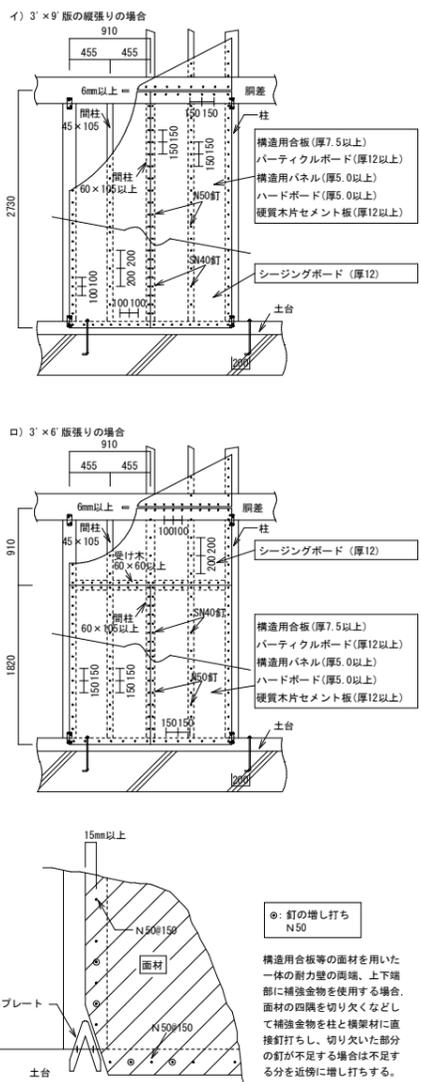
- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
- 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
- 令第129条の2の3の事項 ※設計が該当する場合には、にチェックを記入する。
- ・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
- 建築設備(昇降機を除く。)建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
- 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
- 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
- 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
- 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
- 給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。この場合において、告示第1388号に定めるところによるものとする。
- 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

8. その他

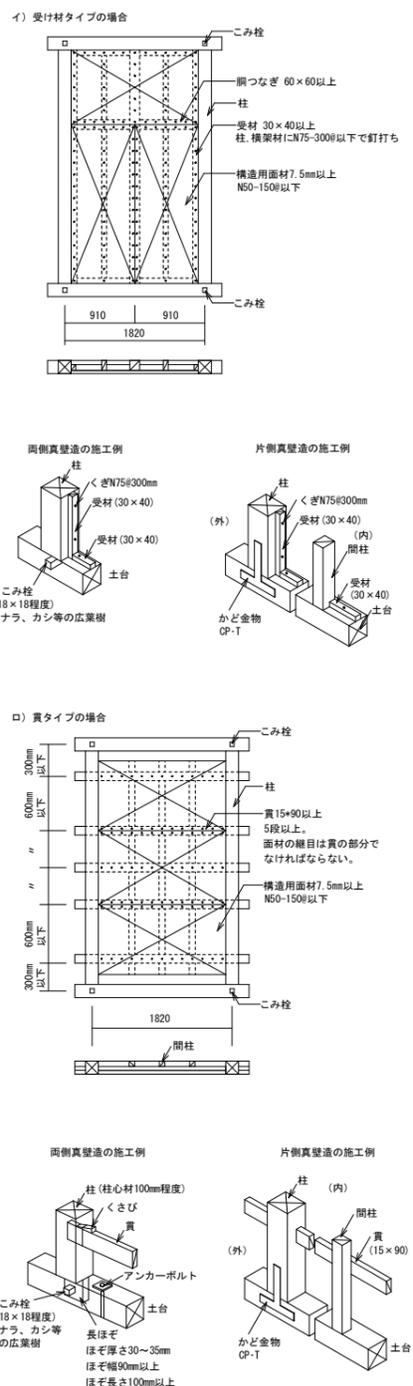
- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

木造標準図 (在来軸組工法) (3)

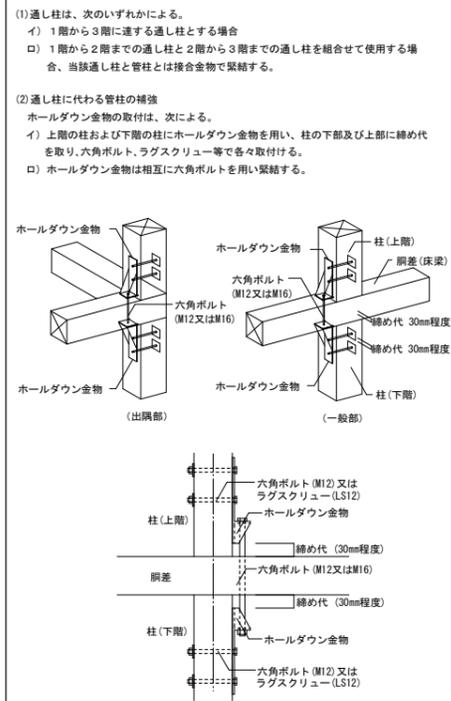
10. 大壁造における構造用面材の張り方



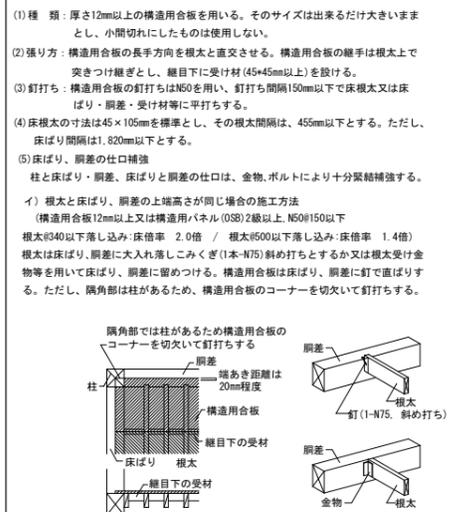
11. 真壁造における構造用面材の張り方



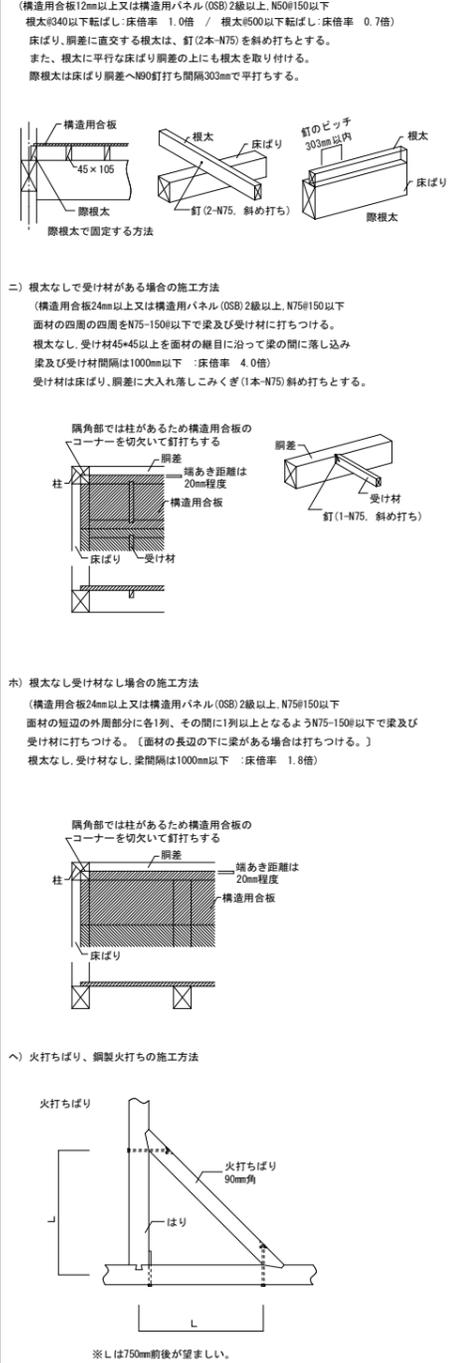
12. 通し柱



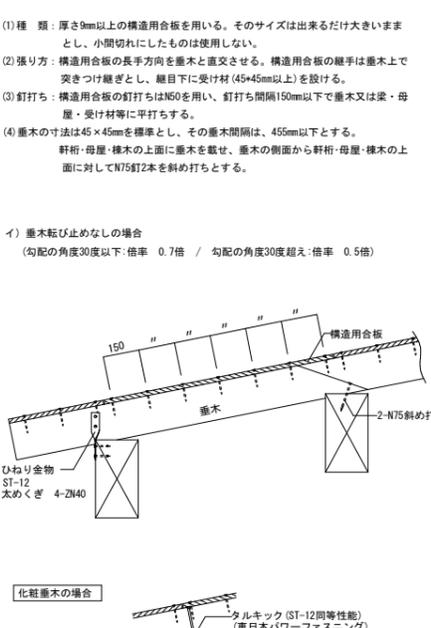
13. 床水平構面の仕様



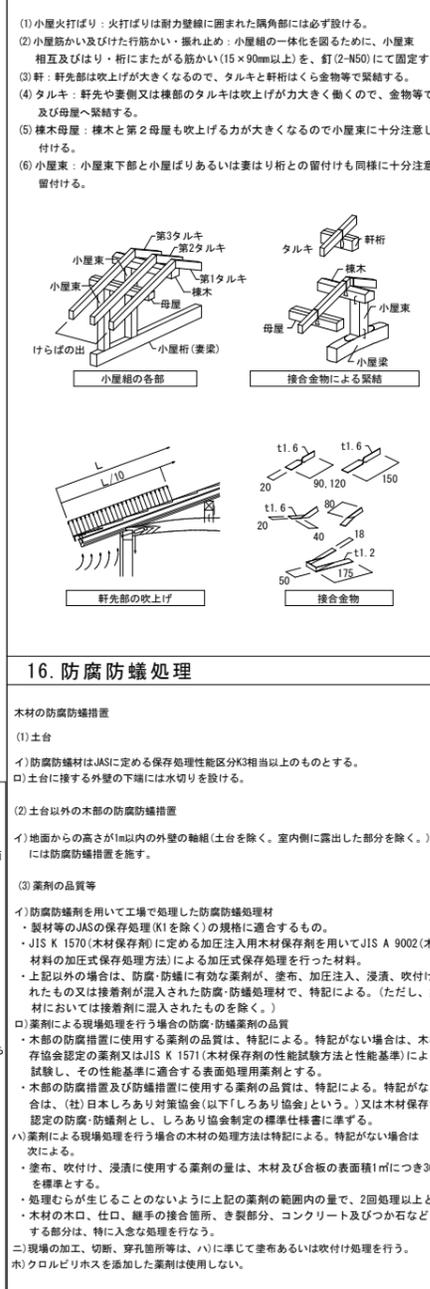
14. 勾配屋根水平構面の仕様

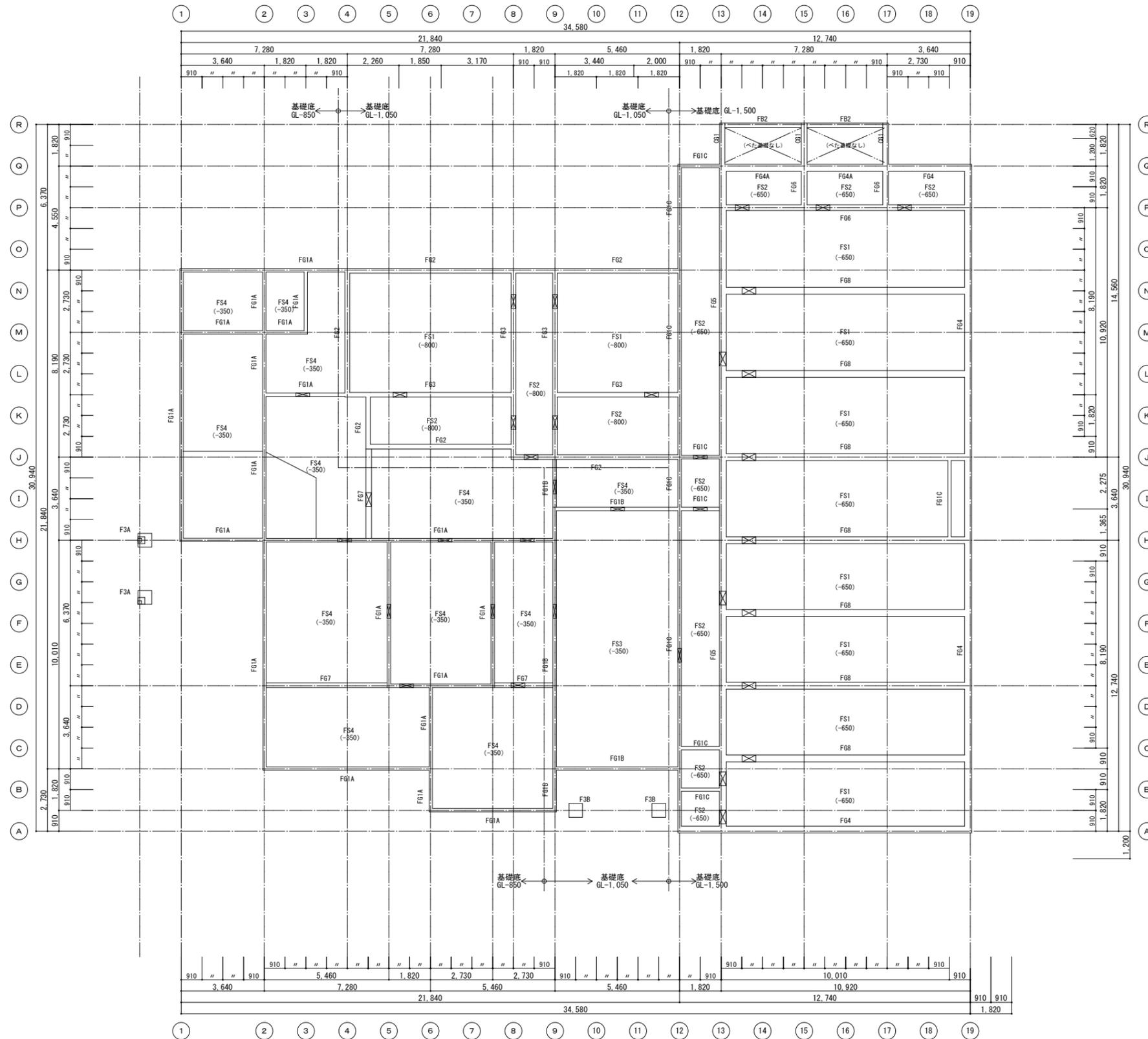


15. 屋根・小屋組の耐風対策



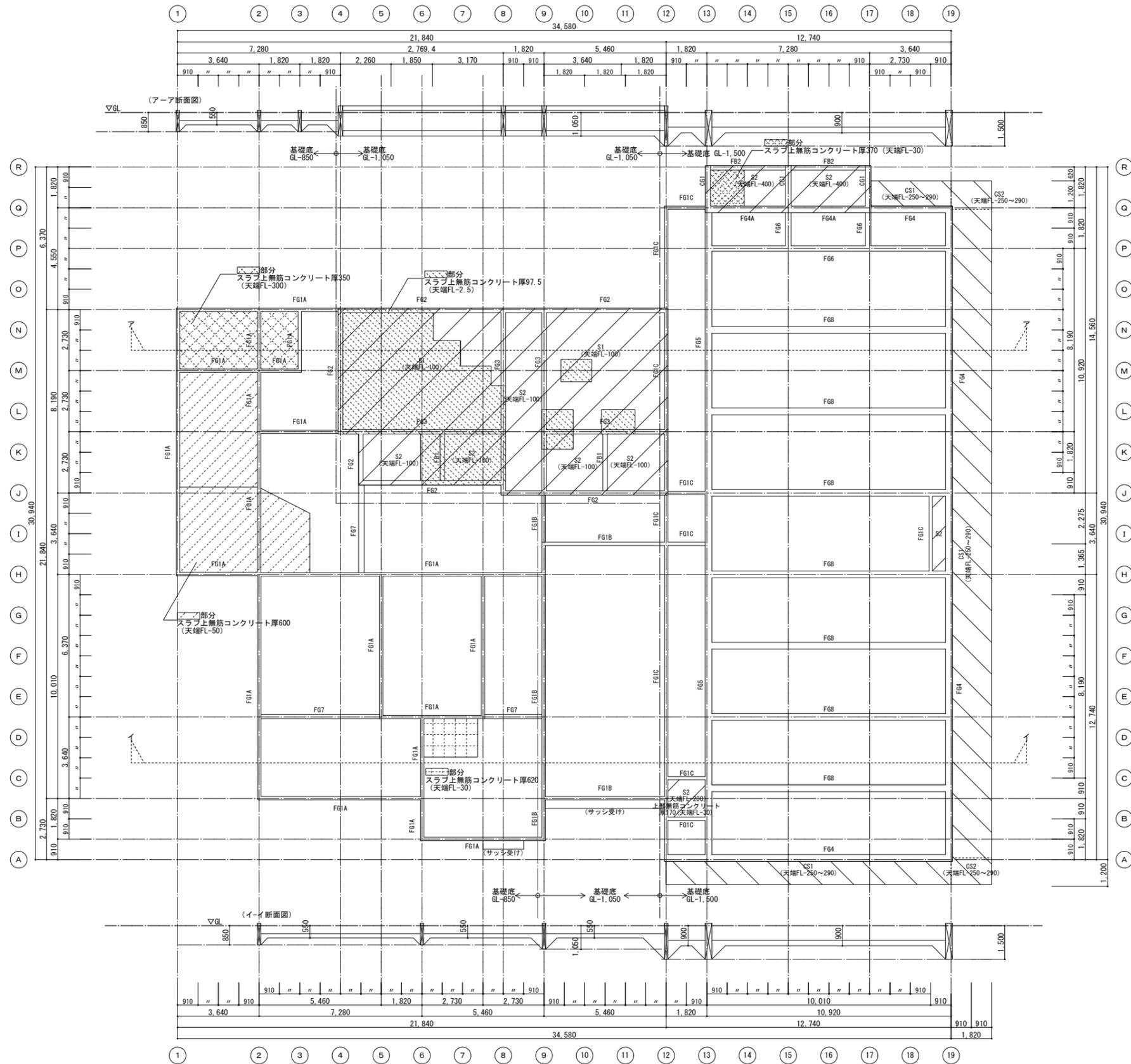
16. 防風防蟻処理





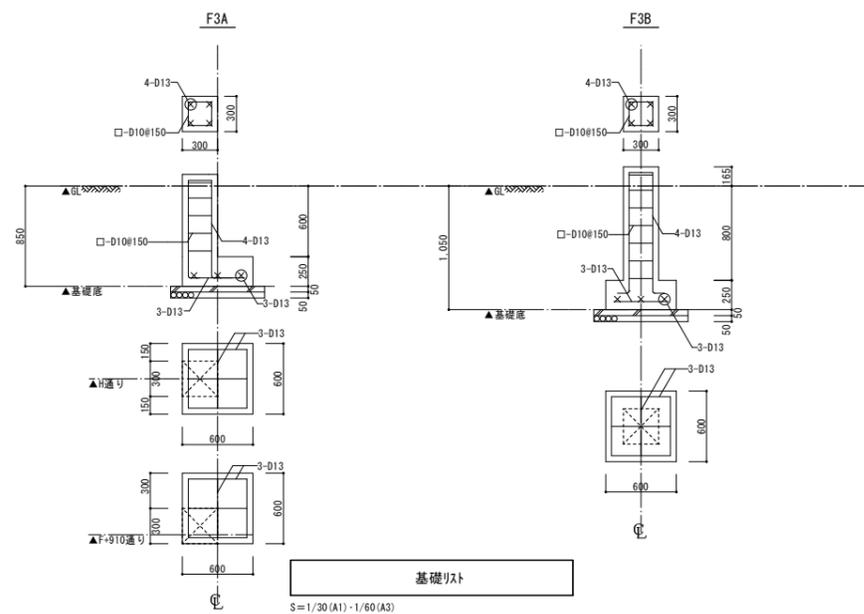
■特記事項
 1) () 内はGLからのべた基礎スラブ天端の高さを示す
 2) ⊠ は人通り600×450 (NOピットは600×550) を示す

基礎伏図 (下部)
 S=1/100 (A1)・1/200 (A3)

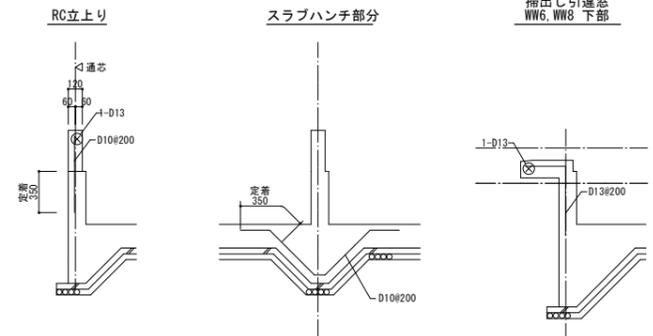


- 特記事項
- 1) RCスラブを示す。
 - 2) 片持ちRCスラブを示す。

基礎伏図(上部)
S=1/100(A1)・1/200(A3)



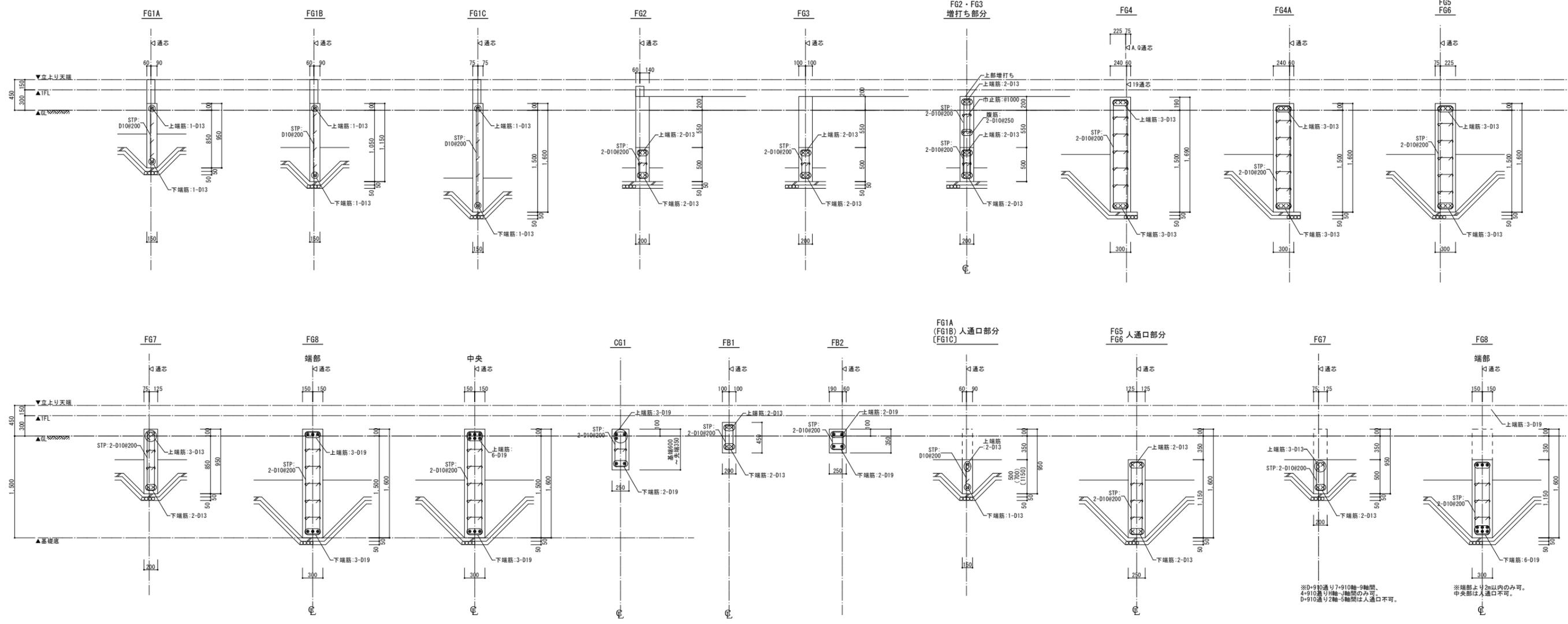
基礎リスト
S=1/30 (A1) - 1/60 (A3)



各部詳細図
S=1/30 (A1) - 1/60 (A3)

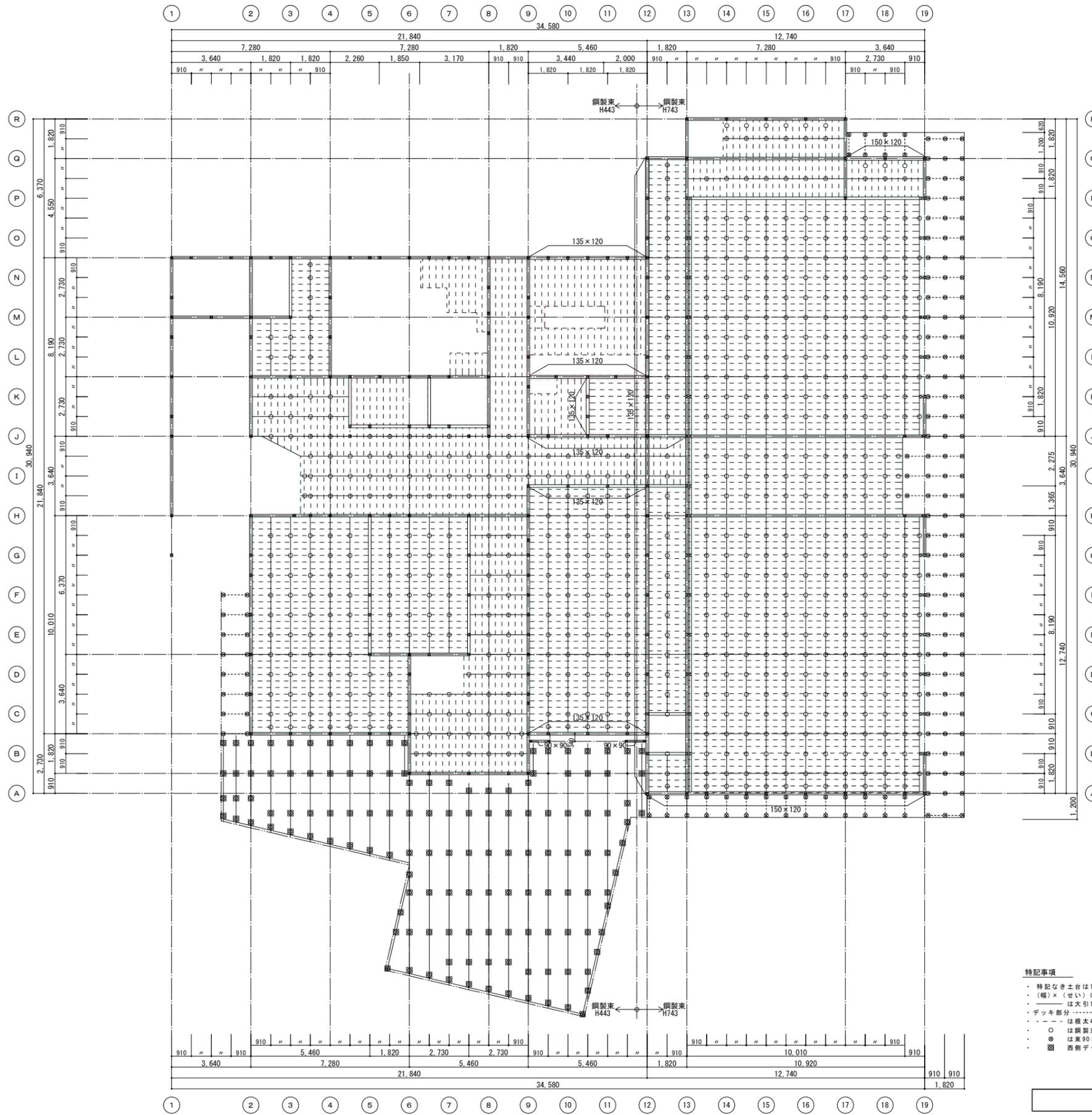
スラブリスト

符号	版厚	位置	短辺方向 (主筋方向)	長辺方向 (配筋方向)	備考
FS1	250	上端筋	D13-150@	D13-150@	捨てコンt50 砕石t50
		下端筋	D13-150@	D13-150@	
FS2	250	上端筋	D10, D13-150@	D10, D13-150@	捨てコンt50 砕石t50
		下端筋	D10-150@	D10-150@	
FS3	200	上端筋	D10, D13-200@	D10, D13-200@	捨てコンt50 砕石t50
		下端筋	D13-200@	D13-200@	
FS4	200	上端筋	D10, D13-200@	D10, D13-200@	捨てコンt50 砕石t50
		下端筋	D10-200@	D10-200@	
S1	200	上端筋	D13-150@	D13-150@	
		下端筋	D13-150@	D13-150@	
S2	150	上端筋	D10, D13-200@	D10, D13-200@	
		下端筋	D10-200@	D10-200@	
CS1	220~180	上端筋	D13-200@	D10-200@	
		下端筋	D10-200@	D10-200@	
CS2	220~180	上端筋	D13-200@	D13-200@	
		下端筋	D10-200@	D10-200@	



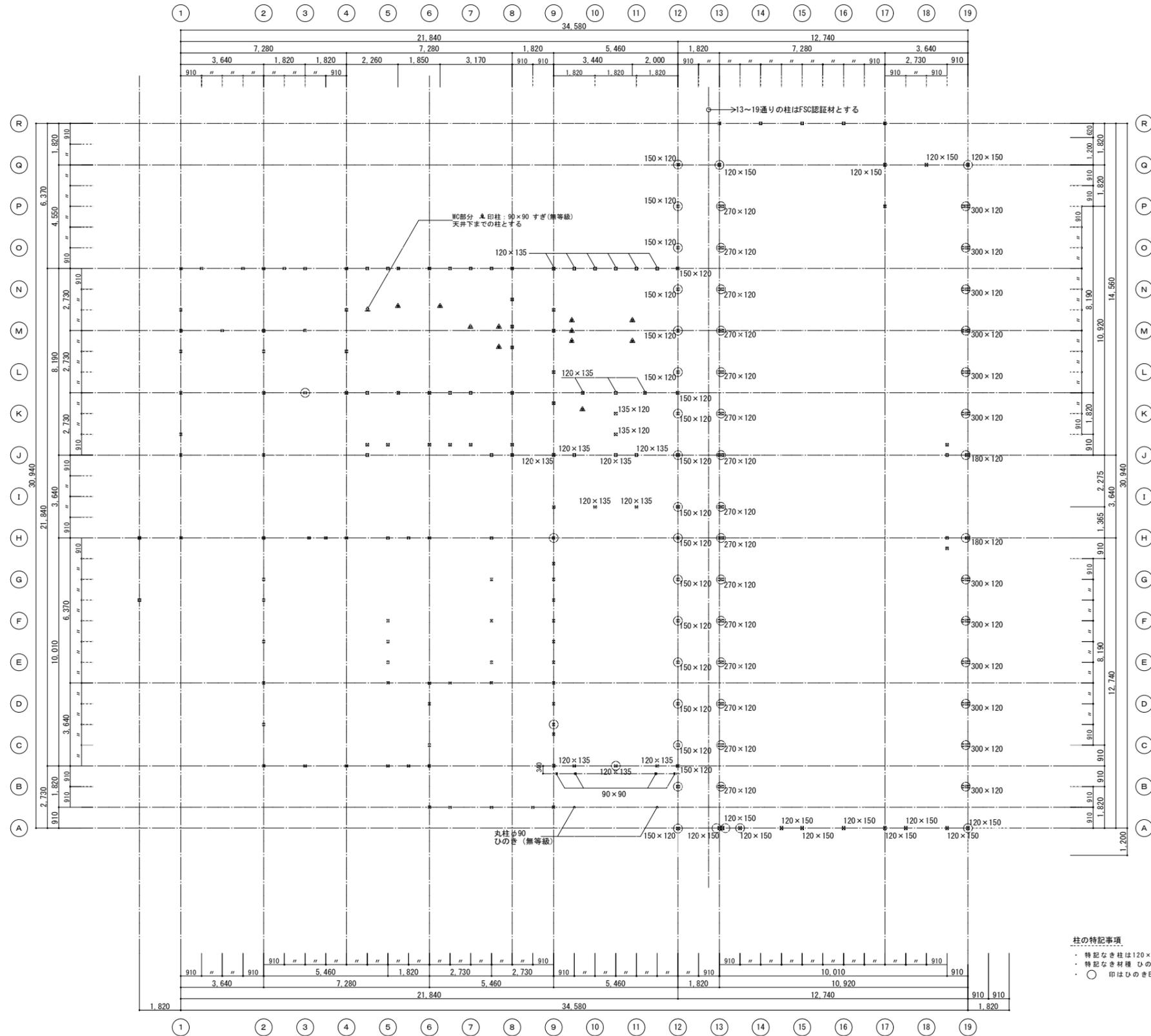
地中梁リスト
S=1/30 (A1) - 1/60 (A3)

※特記なきは、市止め筋#1000、腹筋2-D10 (梁幅150の場合は1-D10) #250程度とする。
※ は、地中梁のセンターラインを示す。



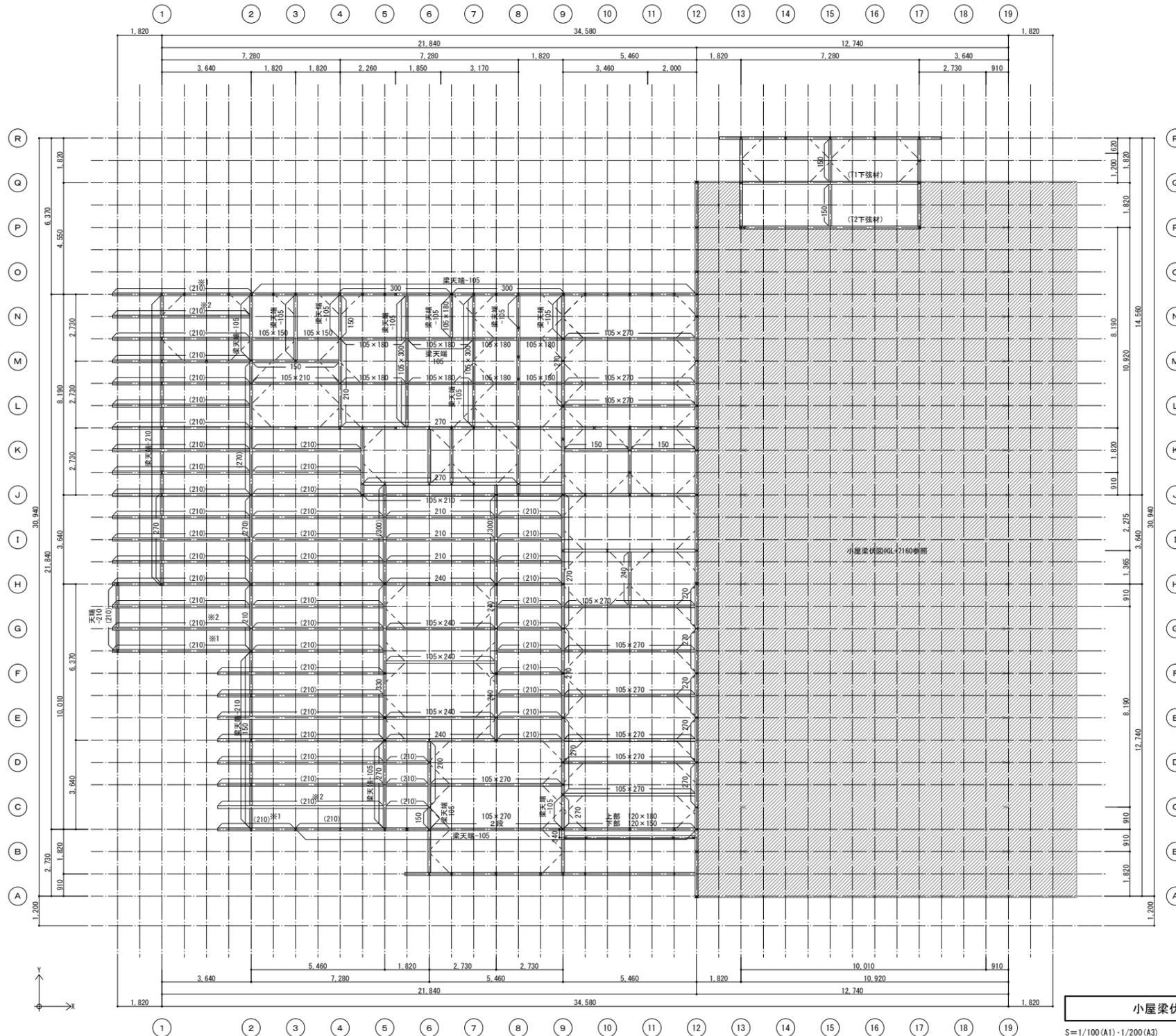
- 特記事項**
- ・ 特記なき土台は120×120 ひのき (無等級) とする
 - ・ (幅)×(せい) は土台のサイズを示す
 - ・ ーは引105×105#910 ひのきを示す
 - ・ デッキ部分 - - - - - は、大引90×90#910 ひのきを示す
 - ・ - - - - - は根太45×60#303すぎを示す
 - ・ ○ は鋼製束#10を示す
 - ・ ● は東90×90ひのき#910を示す
 - ・ ⊗ 西側デッキ部分 東90×90ひのき、礎石250×250#1,820を示す

土台伏図
S=1/100(A1)-1/200(A3)

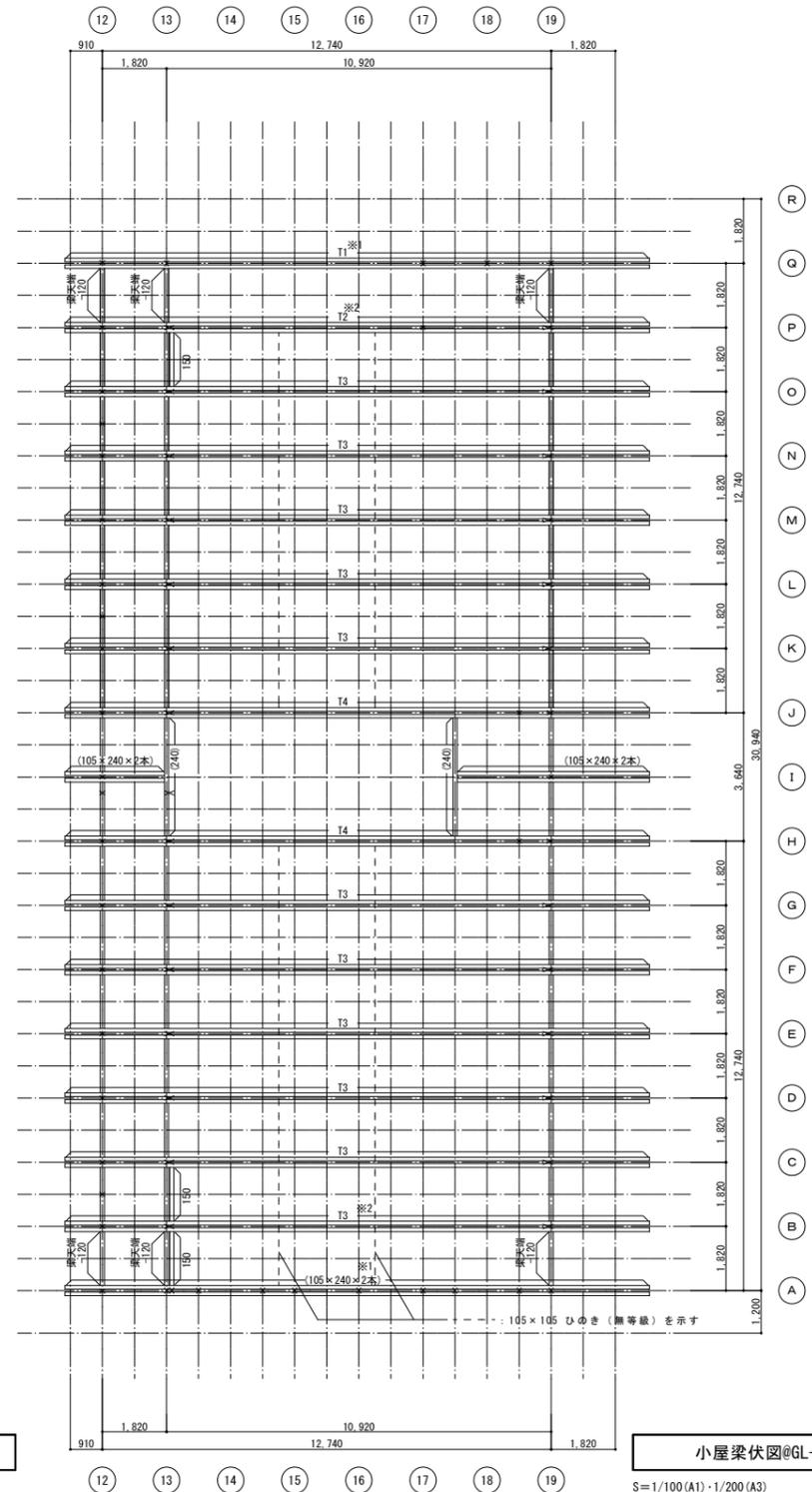


柱の特記事項
 ・ 特記なき柱は120×120とする
 ・ 特記なき材質はひのき(無等級)とする
 ・ ○印はひのきE90を示す

1階柱伏図
 S=1/100(A1)・1/200(A3)



小屋梁伏図
S=1/100(A1)・1/200(A3)



小屋梁伏図@GL+7160
S=1/100(A1)・1/200(A3)

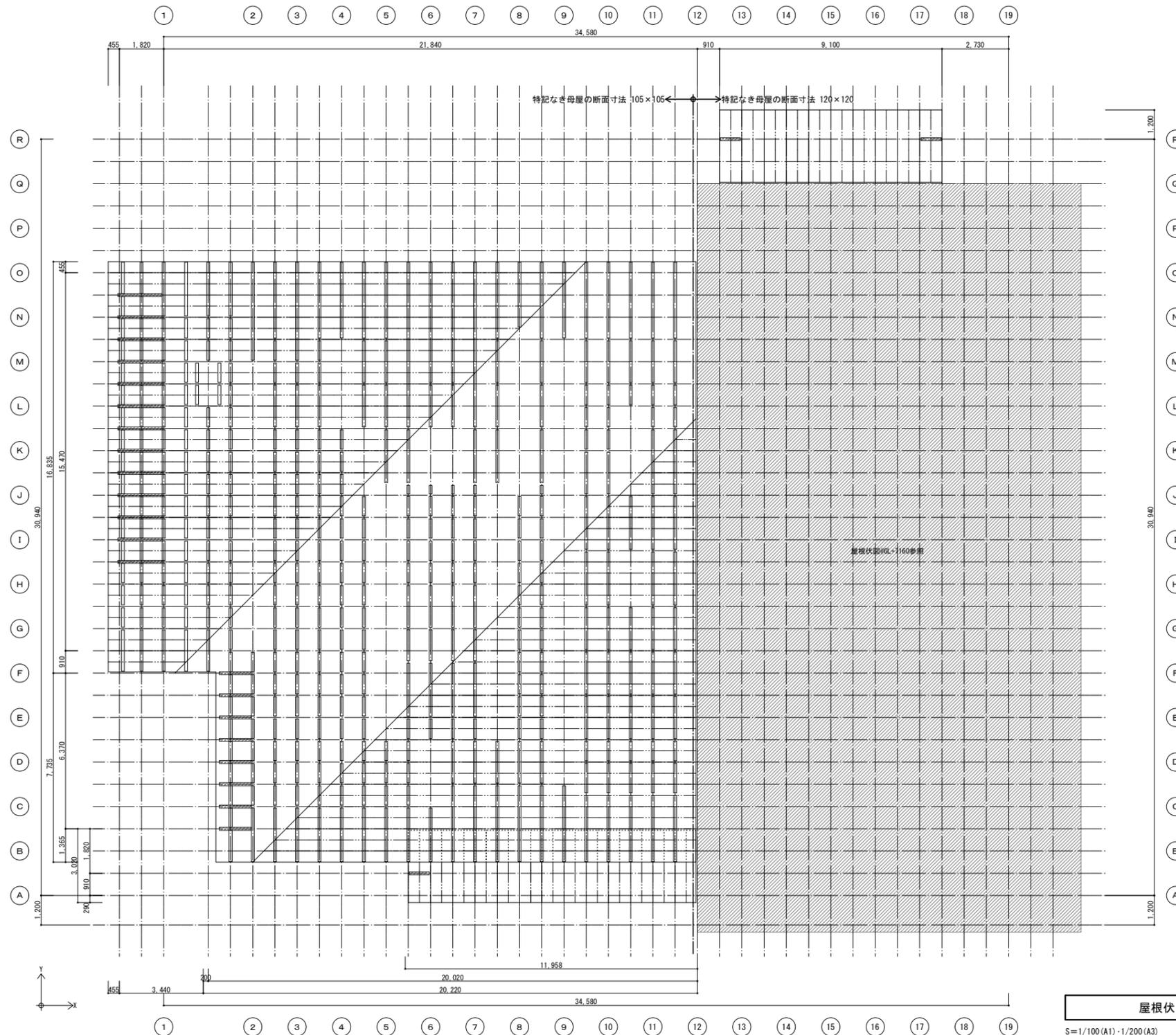
梁の特記事項

- ・ 特記なき梁はすぎ (無等級) とする
- ・ () 内の梁はひのき (無等級) とする
- ・ 特記なき梁せい180とする
- ・ 特記なき梁幅120とする
- ・ --- : 火打ち 90×90 すぎ (無等級) とする
- ・ 火打設置位置は登録上揃合わせとする

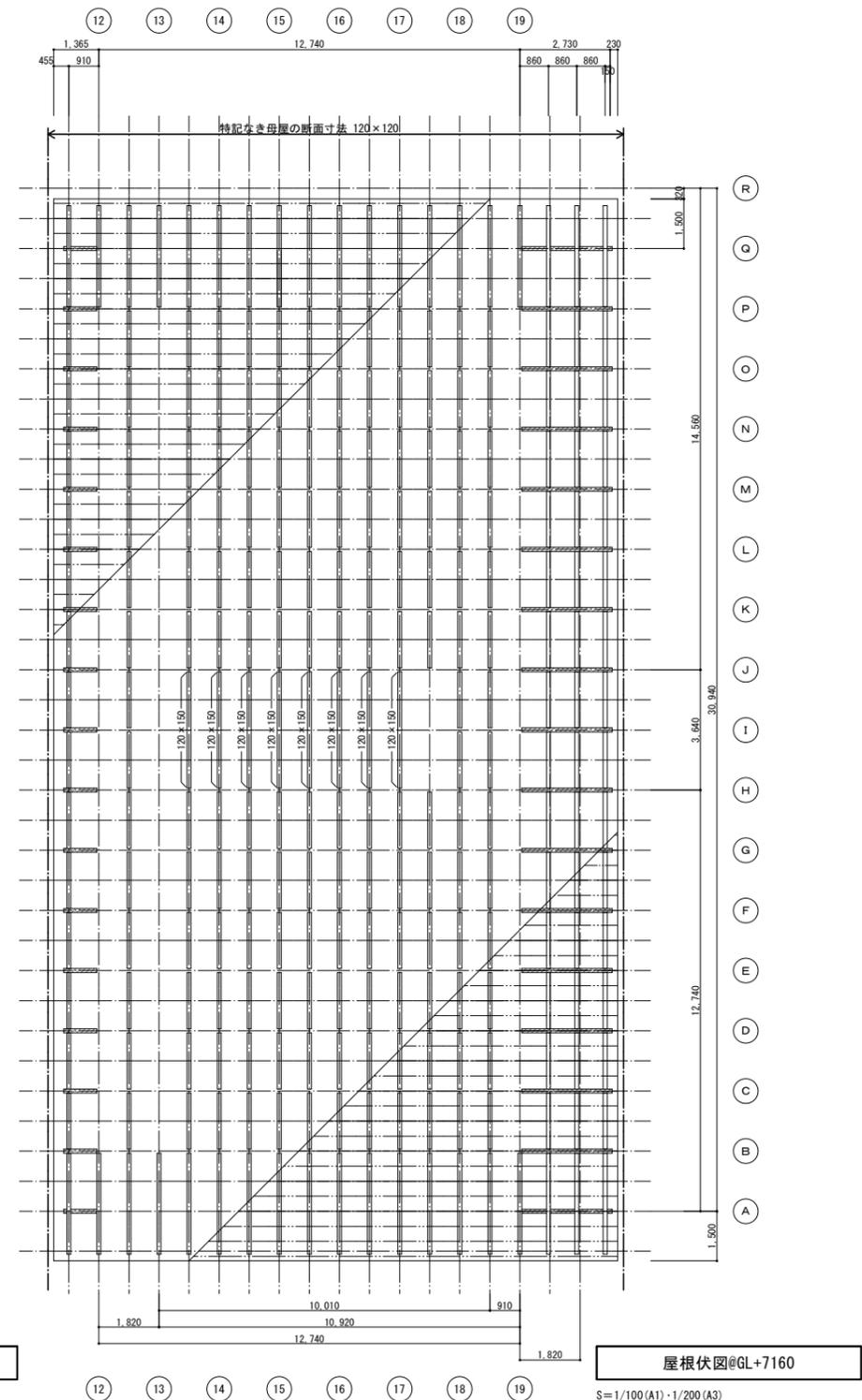
- T1, T2, T3, T4 : トラス梁を示す (別図参照)
- ※1部分 : 梁を切り欠いて母屋を挿入する (別図参照)
- ※2部分 : PL-4.5×L型90×90にて母屋を挿入する (別図参照)

柱の特記事項

- × : 1階柱を示す



屋根伏図
S=1/100(A1)・1/200(A3)

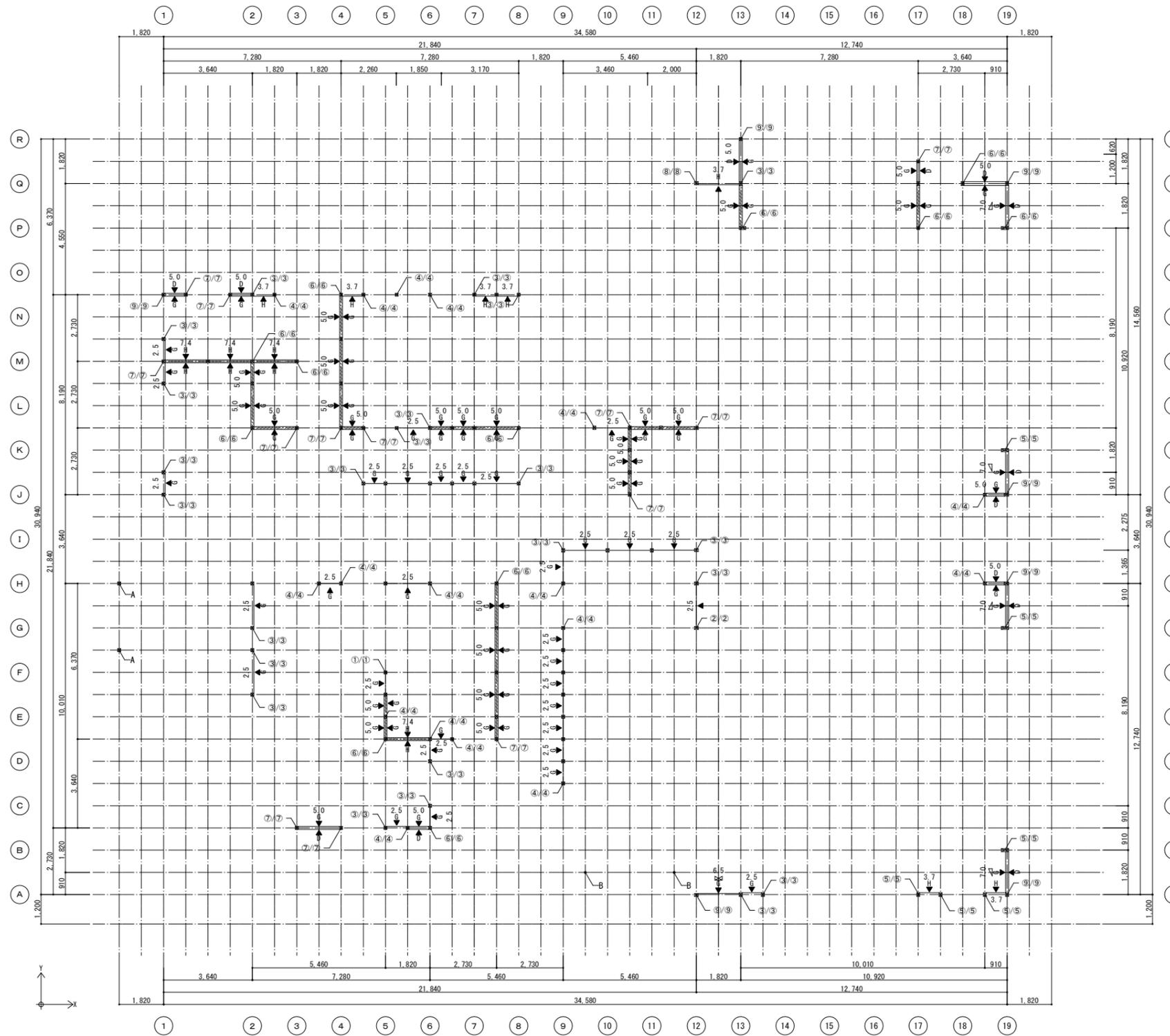


屋根伏図@GL+7160
S=1/100(A1)・1/200(A3)

屋根の特記事項

- : 梁延長を示す
- : 大教室・中教室上部(12~19通り)の母屋はひのき(無等級)とする
- : 垂木 45×90 @ 455 すぎ(無等級)とする
- : 特記なき母屋はすぎ(無等級)とする
- : 特記なき母屋セイ120とする

垂木には、転び止めを打付けること
 転び止めは、軒桁・母屋(垂木の種目載る母屋)・棟木の上面の垂木と垂木の間に、
 垂木と同断面の転び止め材を載せ、転び止め材の側面から軒桁・母屋・棟木の上面
 にN75釘4本(表2本と裏2本を千鳥配置)を斜め打ち。



面材・金物位置図
S=1/100(A1)・1/200(A3)

接合金物 (柱頭/柱脚を示す)

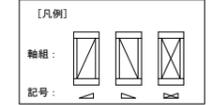
①: CP	3.40kN	⑥: HD-25	25.00kN
②: SB	5.00kN	⑦: HD-30又は2HD-15	30.00kN
③: HD-10	10.00kN	⑧: HD-40又は2HD-20	40.00kN
④: HD-15	15.00kN	⑨: 2HD-25	50.00kN
⑤: HD-20	20.00kN		

- ③～⑨の柱脚部は「4-4」を用いた「カネボウ」を用いて直接基礎へ接続すること。
- 筋かい端部の接合には、筋かい「レ」BP-2、もしくは同等認定金物を用いること。
- 図示の金物以外にも、金物により適宜接合部を補強すること。

耐力壁の凡例 (位置と仕様)

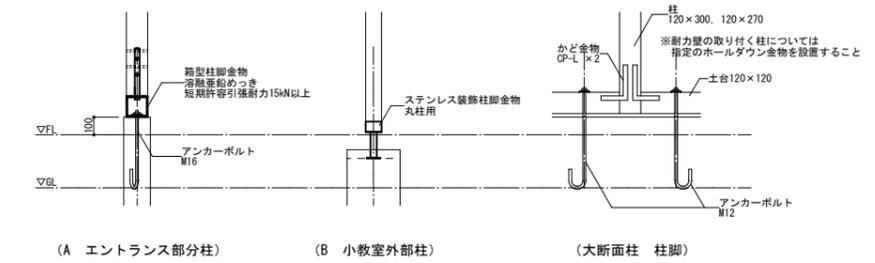
- | 表示 | 倍率 | 仕様 |
|----|-----|--|
| | 2.5 | 外壁 耐力下地材(火山性)3層複層板 大壁仕様 |
| | 2.5 | 内壁 構造用合板 大壁仕様
厚 9mm 以上、N50、くぎの間隔150mm以下 |
| | 3.7 | 構造用合板 大壁高耐力仕様
厚 9mm 以上、CN50、くぎの間隔75mm以下 |
| | 2.0 | 片筋かい 45mm X 90mm |
| | 4.0 | 両筋かい 45mm X 90mm
上下 2段 とする |

印は、片筋かいの向き方向を示す

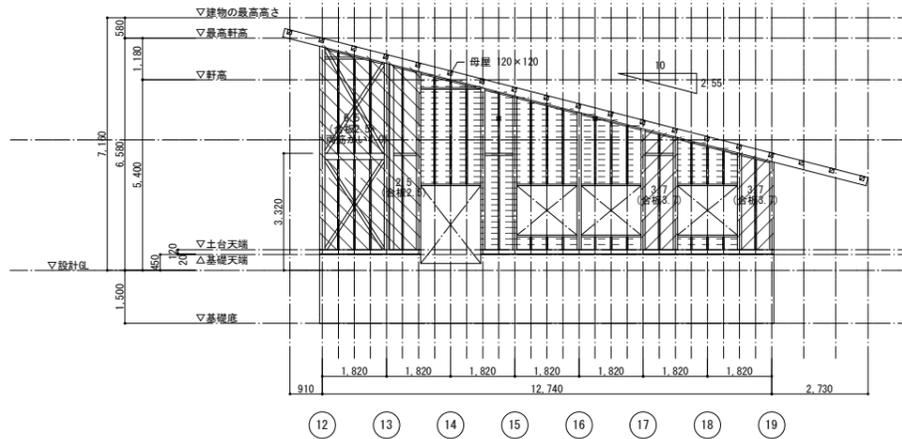


▲印は、構造用合板、または、外壁 耐力下地材を貼る面を示す

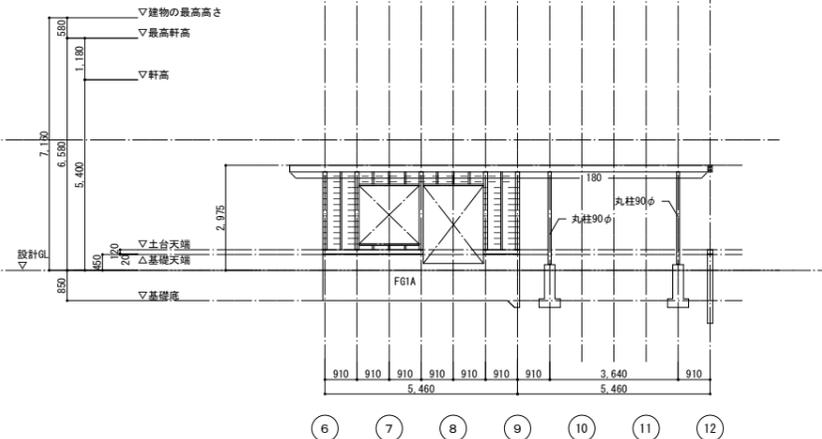
数値は、該当箇所の耐力部材 (面材・筋かい) 壁倍率の合計を示す。
但し、全46条の壁量計算では、壁倍率5倍を超える場合は5倍で計算する。



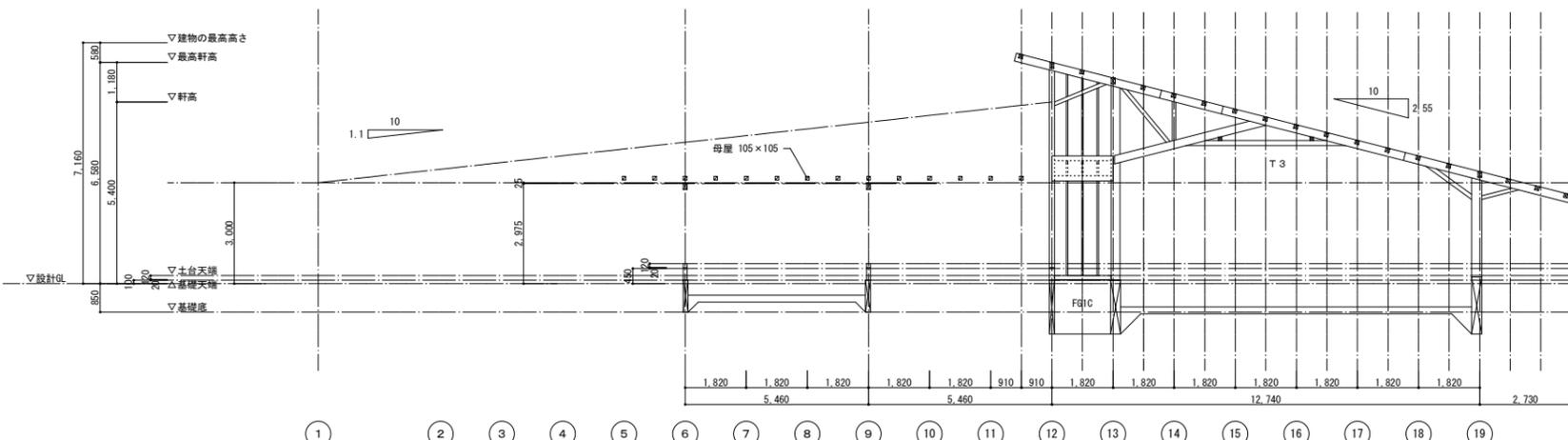
金物図
S=1/20(A1)・1/40(A3)



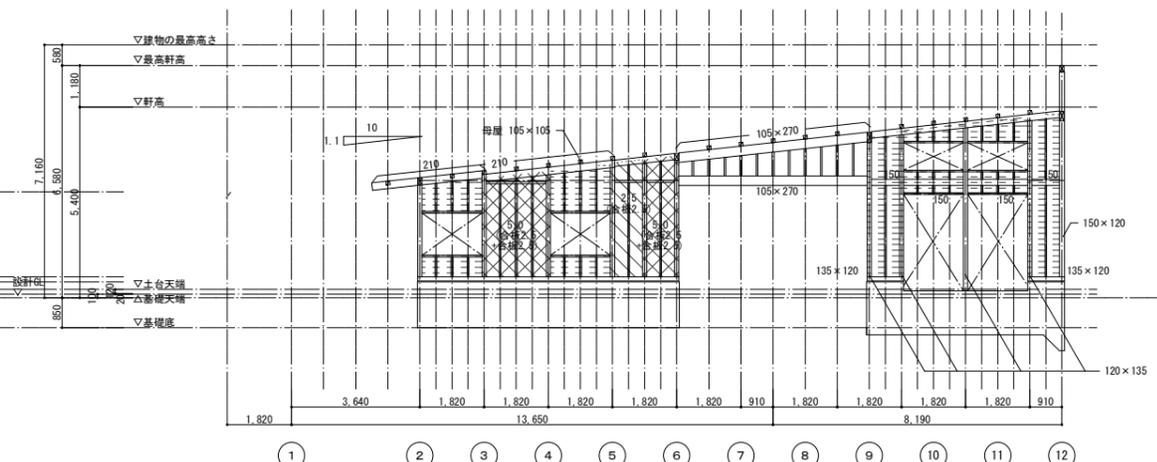
A通り軸組図



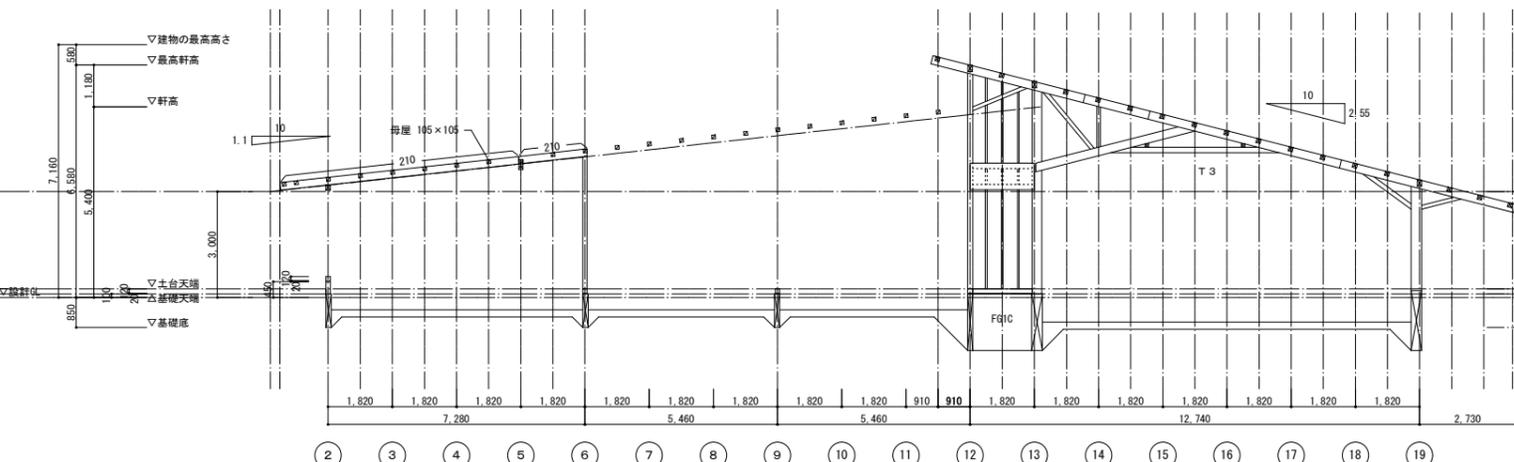
A+910通り軸組図



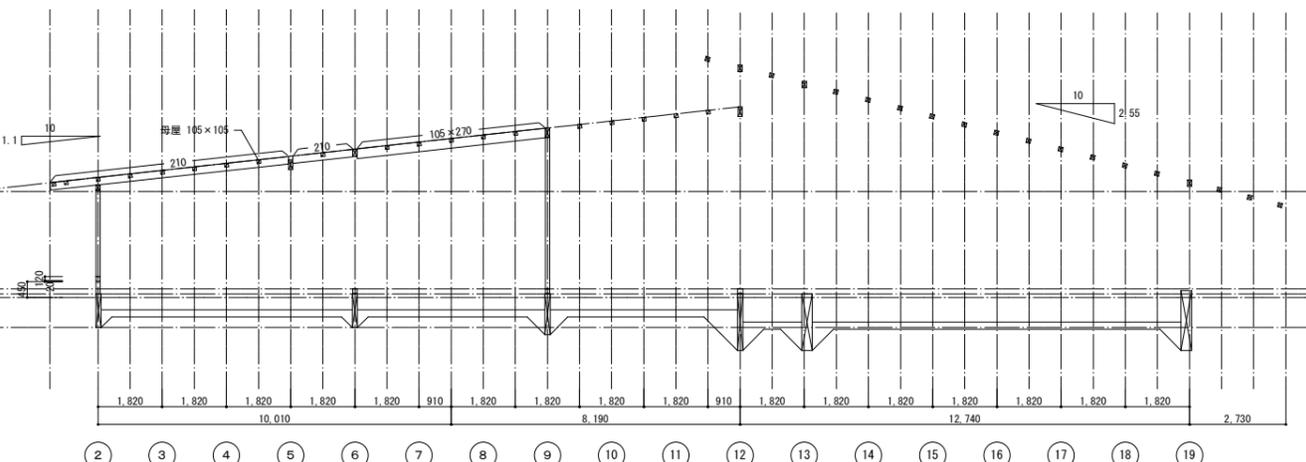
B通り軸組図



B+910通り軸組図



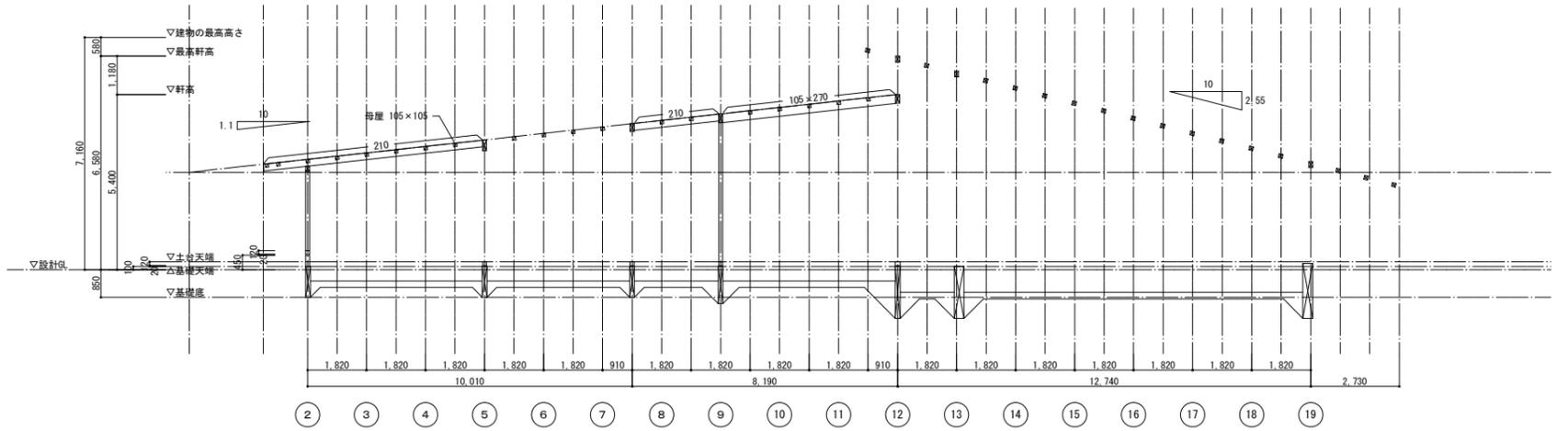
C通り軸組図



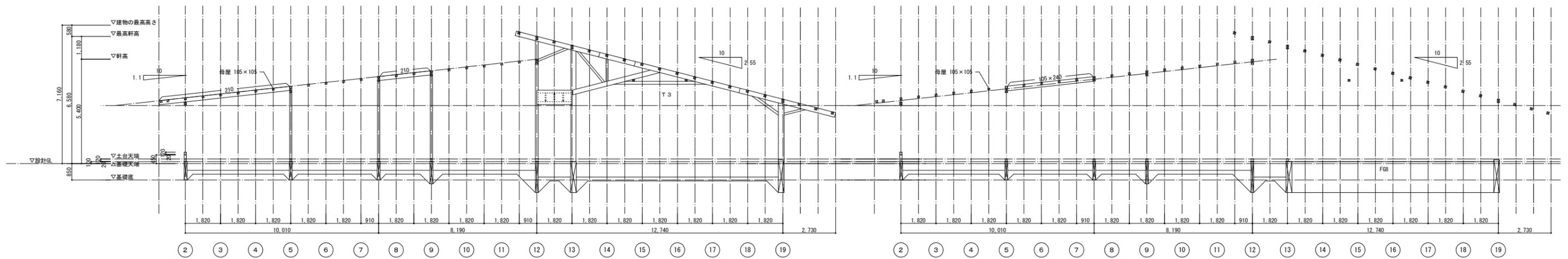
C+910通り軸組図

凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	7.5 (2.5 +2.5 +2)	外周部	外壁耐力下地材(火山性が3質種層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 片筋かき 45mm×90mm		2.5 (2.5)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	5.0 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材(火山性が3質種層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)		5.0 (2.5 +2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	3.7 (3.7)	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面 (内壁側) t=9 CN50(くぎの間隔75mm以下)		2.5 (2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	6.5 (2.5 +4)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 両筋かき 45mm×90mm		-	外周部	構造用合板 t=12 非耐力壁の外壁は N50又はCN50/200 (外周・中間部共)とする

特記事項
 ・ 特記無き梁幅120とする
 ・ 特記無き床セI180とする
 ・ 特記無き柱は 120×120 とする

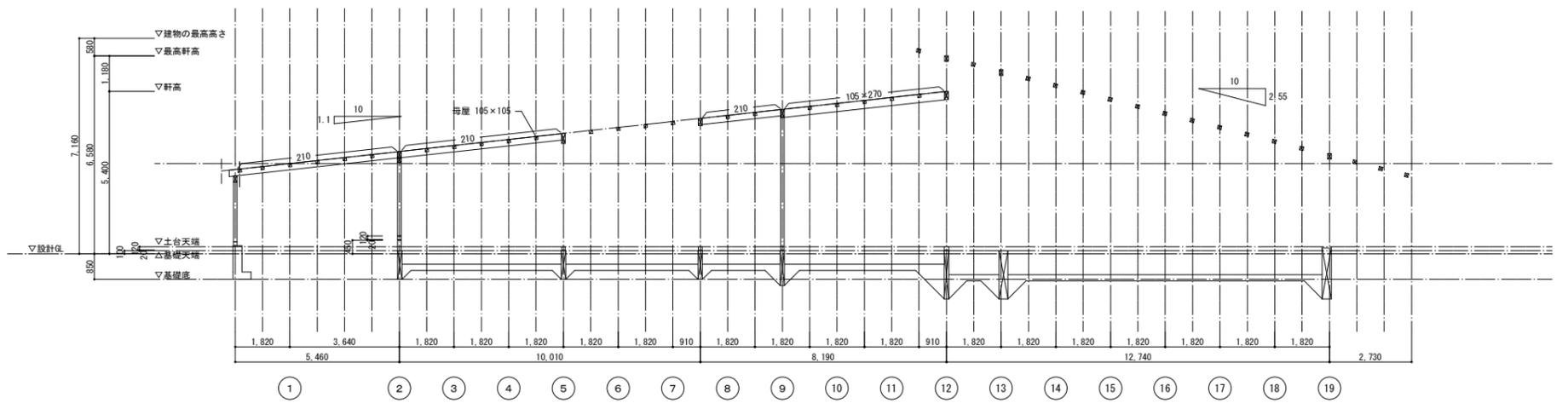


E+910通り軸組図



F通り軸組図

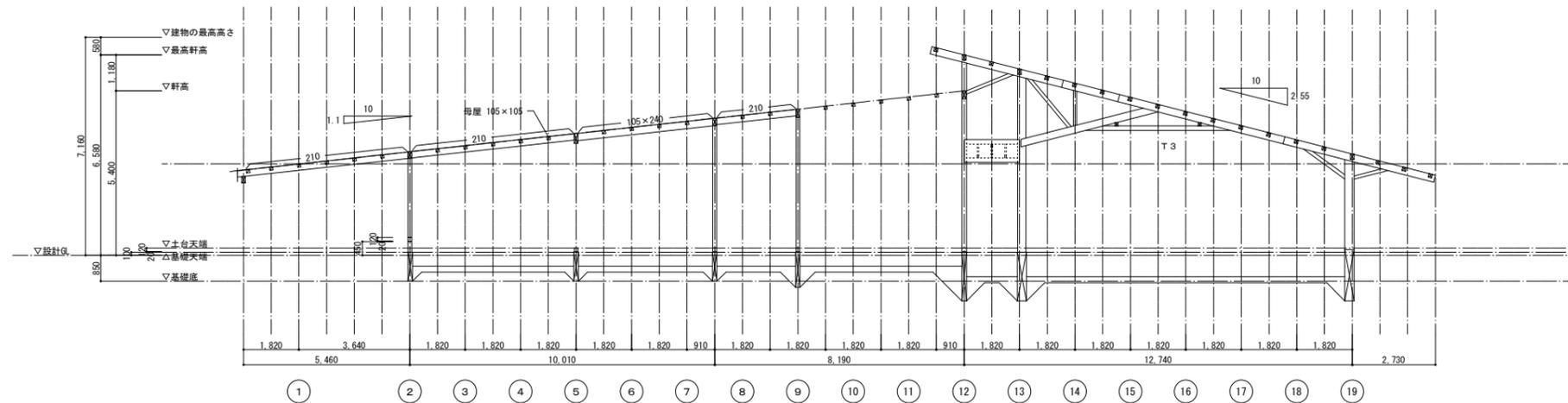
F+455通り軸組図



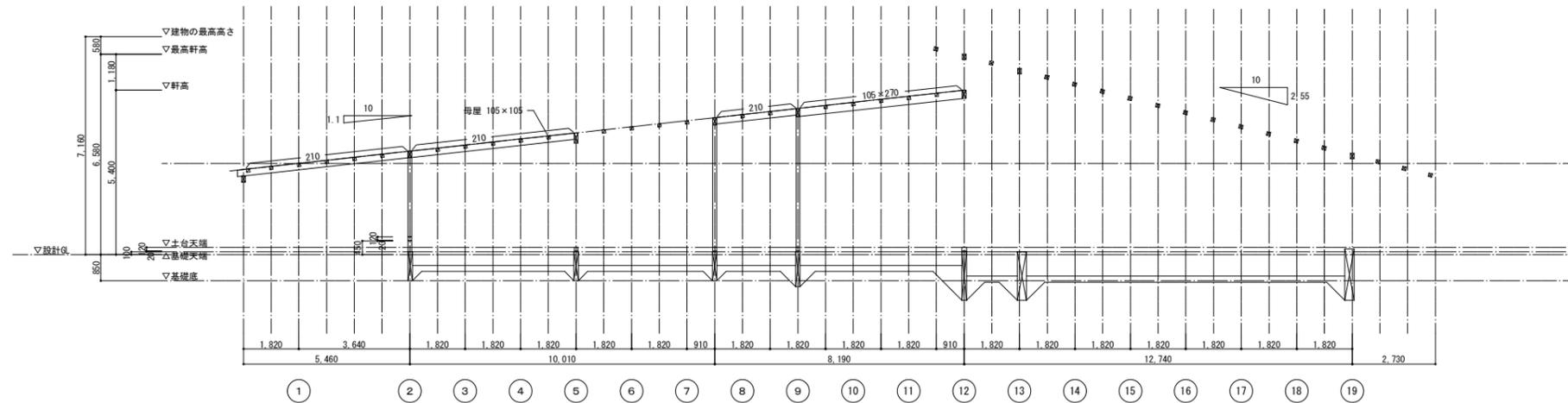
F+910通り軸組図

- 特記事項
- ・ 特記無き梁幅 120 とする
 - ・ 特記なき梁セリ 180 とする
 - ・ 特記無き柱は 120 × 120 とする

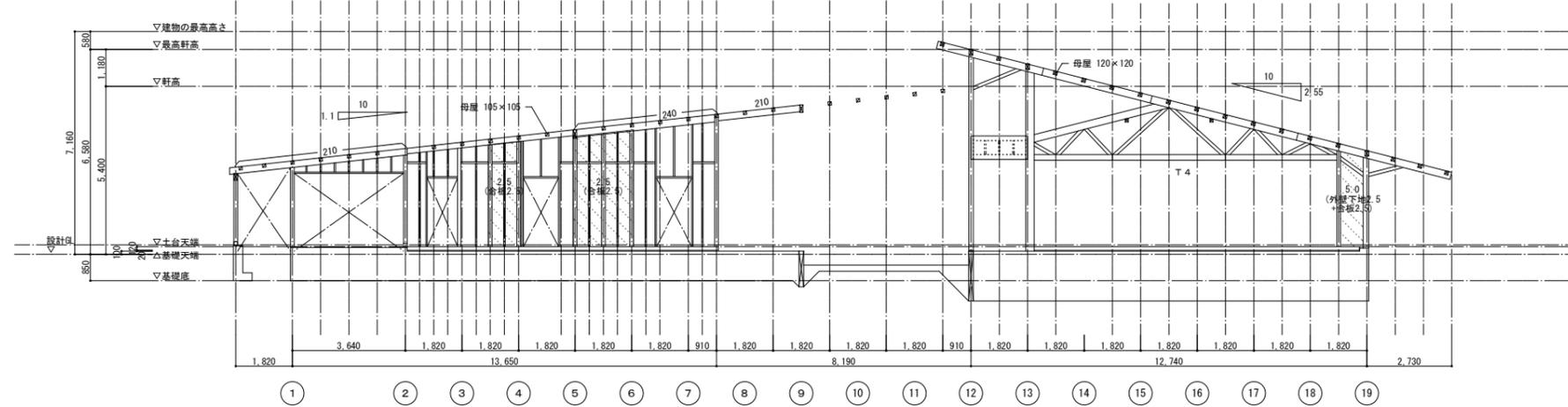
凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	7.5 (2.5 +2.5 +2)	外周部	外壁耐力下地材 (火山性) 2層複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50 (<きの間隔150mm以下) 片筋かき 45mm X 90mm		2.5 (2.5)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50 (<きの間隔150mm以下)
	5.0 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材 (火山性) 2層複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50 (<きの間隔150mm以下)		5.0 (2.5 +2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50 (<きの間隔150mm以下)
	3.7 (3.7)	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面 (内壁側) t=9 N50 (<きの間隔75mm以下)		2.5 (2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50 (<きの間隔150mm以下)
	6.5 (2.5 +4)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50 (<きの間隔150mm以下) 両筋かき 45mm X 90mm		-	外周部	構造用合板 t=12 非耐力壁の外壁は N50又はON50@200 (外周・中間部) とする



G通り軸組図



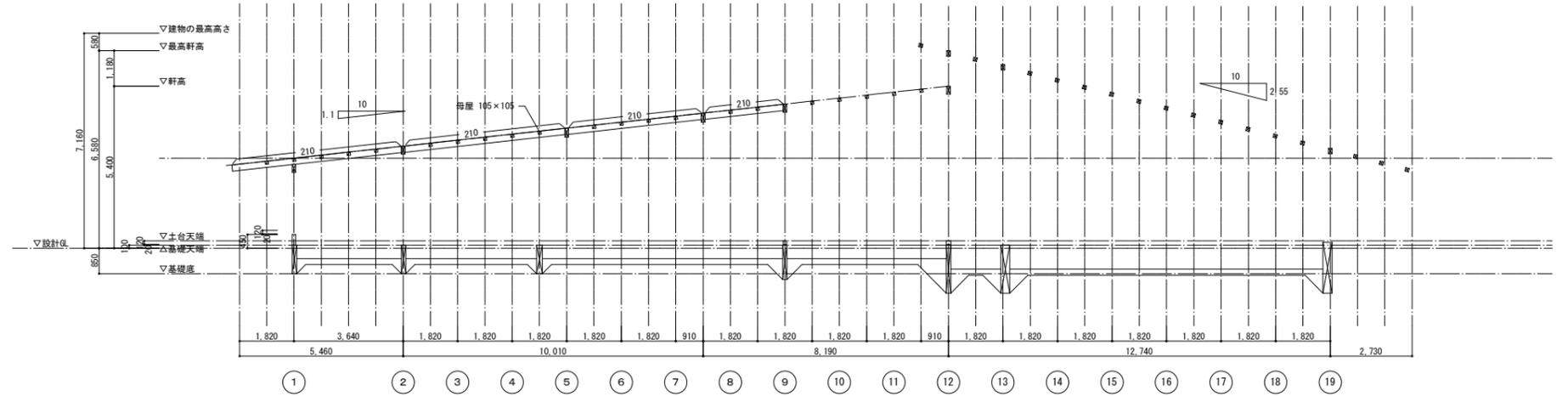
G+910通り軸組図



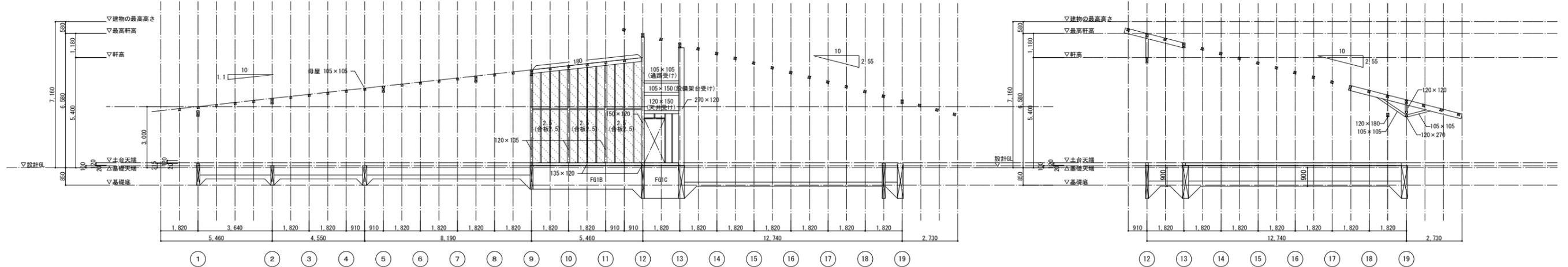
H通り軸組図

- 特記事項
- ・ 特記無き梁幅120とする
 - ・ 特記なき梁セI180とする
 - ・ 特記無き柱は 120×120 とする

凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	7.5 (2.5 +2.5 +2)	外周部	外壁耐力下地材(火山性) 2質複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 片筋かき 45mm×90mm		2.5 (2.5)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	5.0 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材(火山性) 2質複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)		5.0 (2.5 +2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様両面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	3.7 (3.7)	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面 (内壁側) t=9 N50(くぎの間隔75mm以下)		2.5 (2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	6.5 (2.5 +4)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 筋筋かき 45mm×90mm		-	外周部	構造用合板t=12 非耐力壁の外壁は N50又はDN50/200 (外周・中間部共)とする

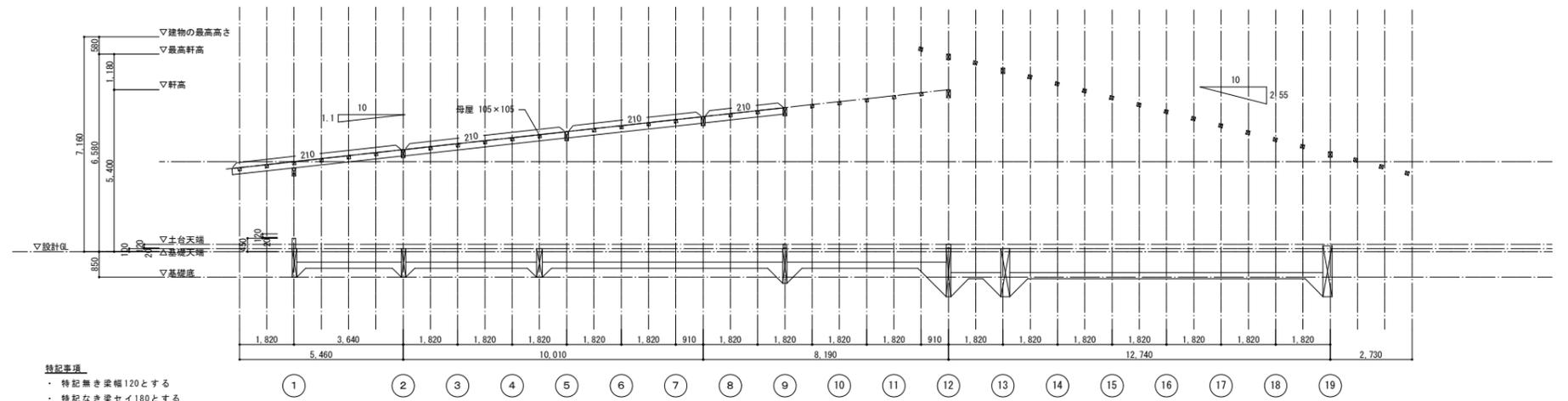


H+910通り軸組図



H+1365通り軸組図

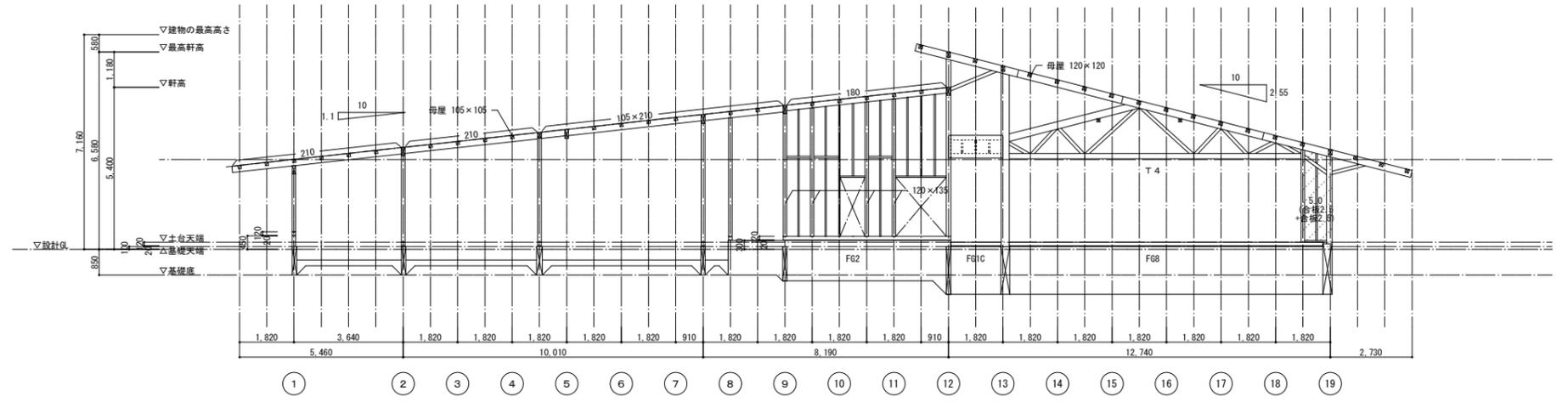
I 通り軸組図



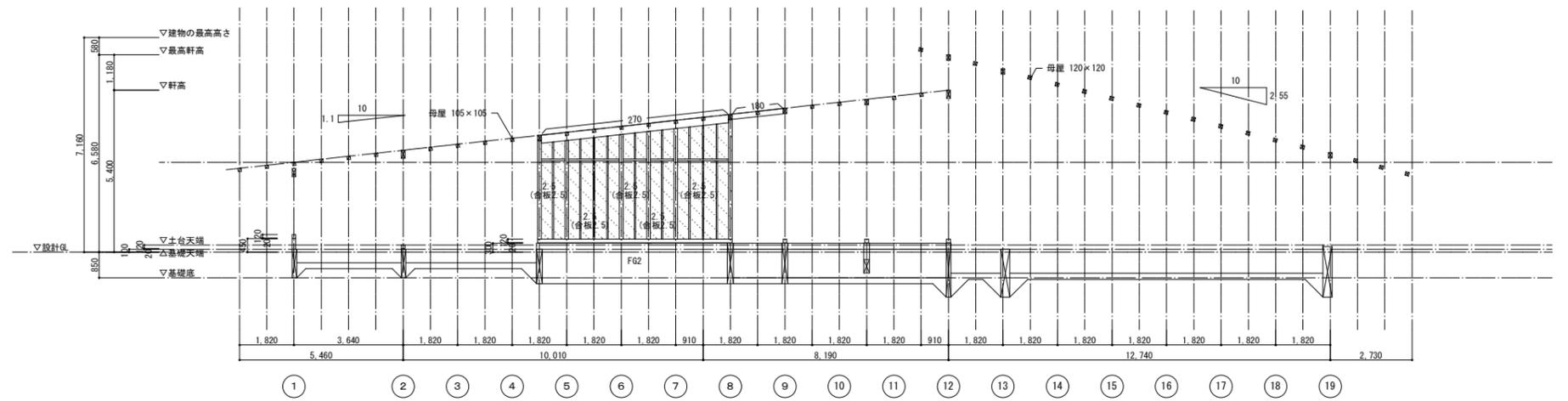
I+910通り軸組図

凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	7.5 (2.5 +2.5 +2)	外周部	外壁耐力下地材(火山性)3質複層板 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下) 片筋かい 45mm×90mm		2.5 (2.5)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)
	5.0 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材(火山性)3質複層板 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)		5.0 (2.5 +2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様両面 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)
	3.7 (3.7)	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面 (内壁側) 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 ON50 (< ぎの間隔75mm以下)		2.5 (2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)
	6.5 (2.5 +4)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下) 両筋かい 45mm×90mm		-	外周部	構造用合板t=12 非耐力壁の外壁は NS0又はNS0200 (外周・中間部共)とする

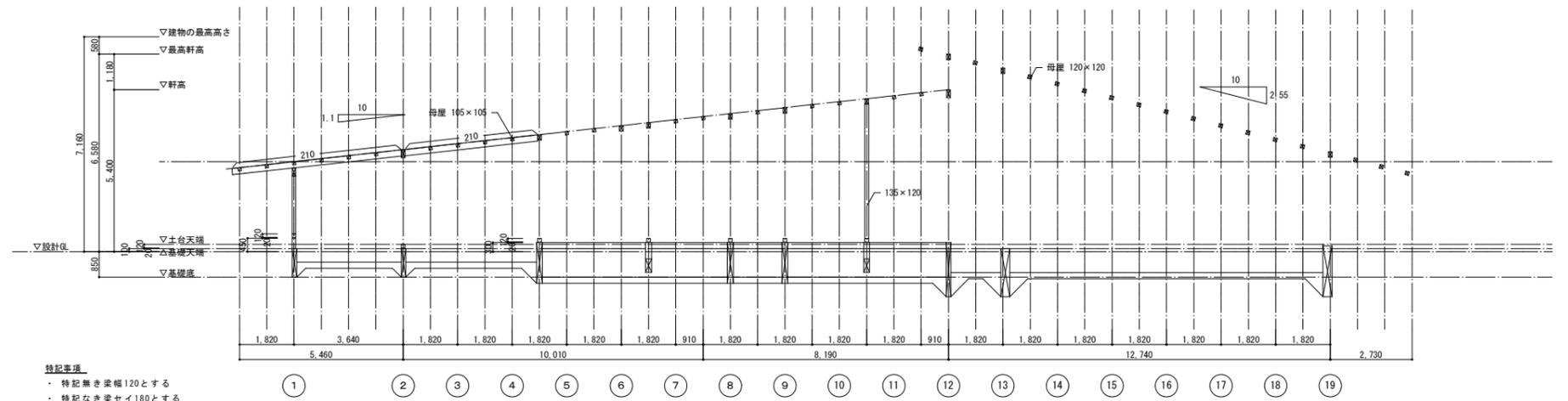
- 特記事項
- ・ 特記なき梁幅120とする
 - ・ 特記なき梁せい180とする
 - ・ 特記なき柱は 120×120 とする



J通り軸組図



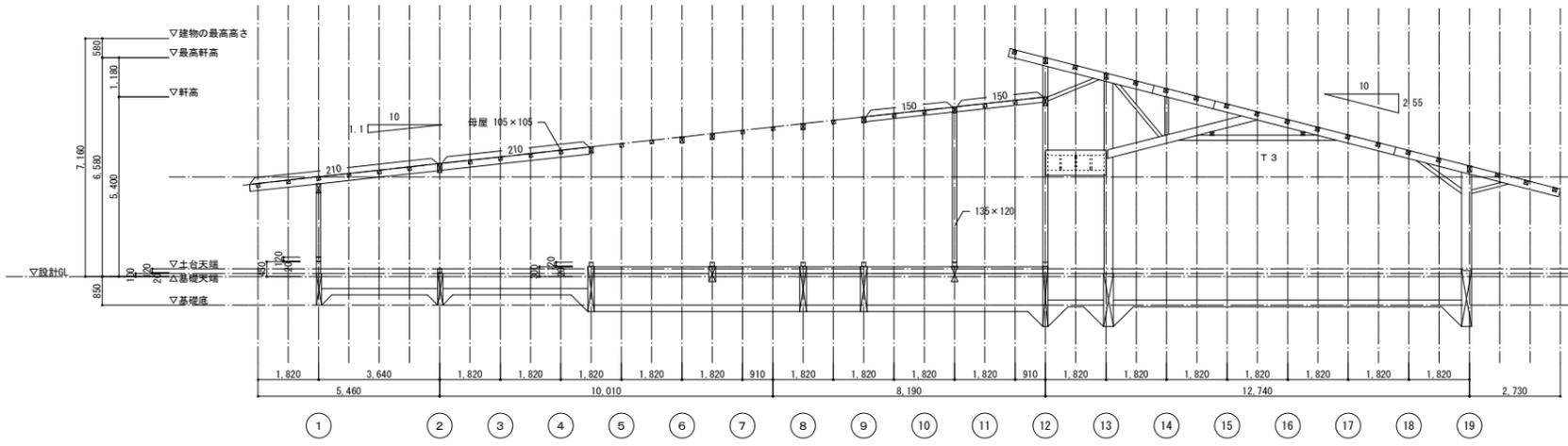
J+455通り軸組図



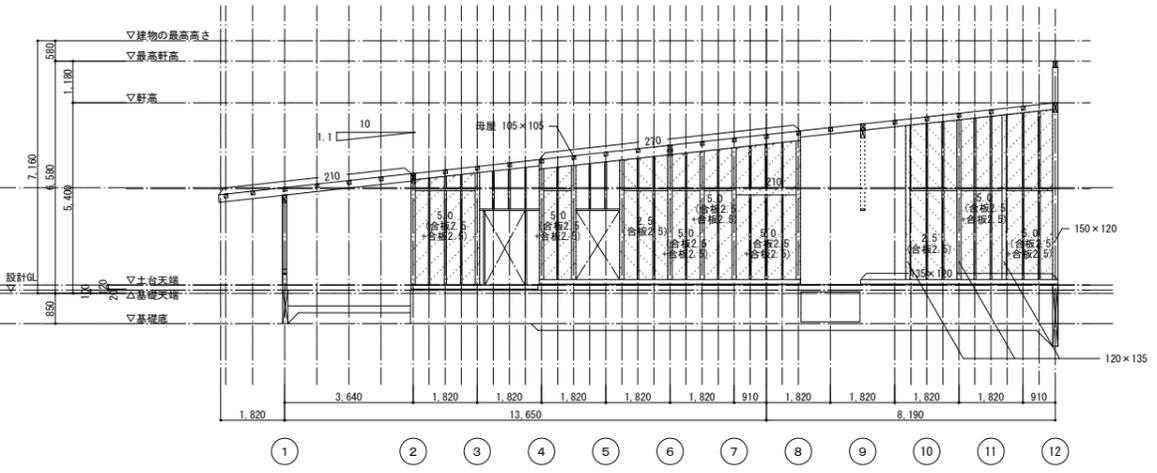
J+910通り軸組図

凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	7.5 (2.5 +2.5 +2)	外周部	外壁耐力下地材(火山性珪質複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 片筋かい 45mm×90mm		2.5 (2.5)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	5.0 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材(火山性珪質複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)		5.0 (2.5 +2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様両面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	3.7 (3.7)	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面 (内壁側)		2.5 (2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	6.5 (2.5 +4)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 両筋かい 45mm×90mm		-	外周部	構造用合板 t=12 非耐力壁の外壁は N50又はCN50/200 (外周・中間部共)とする

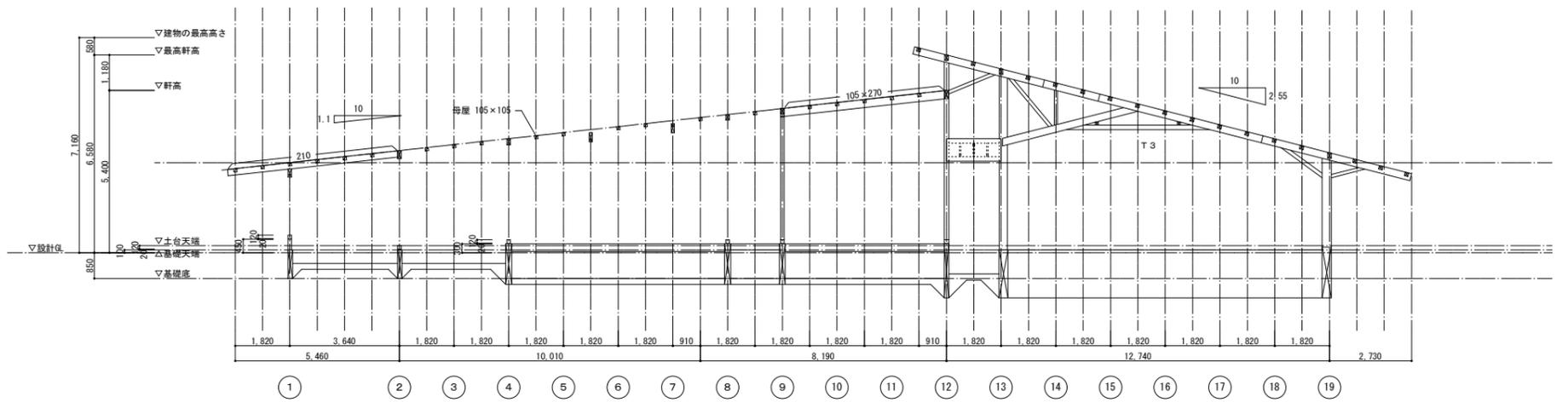
特記事項
 ・ 特記無き梁幅120とする
 ・ 特記なき梁せい180とする
 ・ 特記無き柱は 120×120 とする



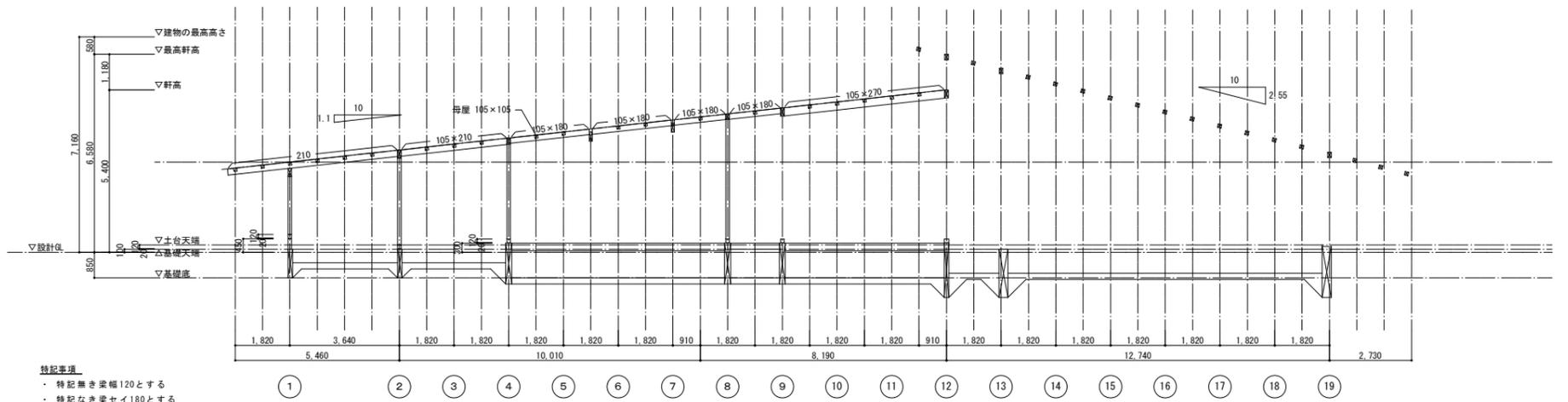
K通り軸組図



K+910通り軸組図



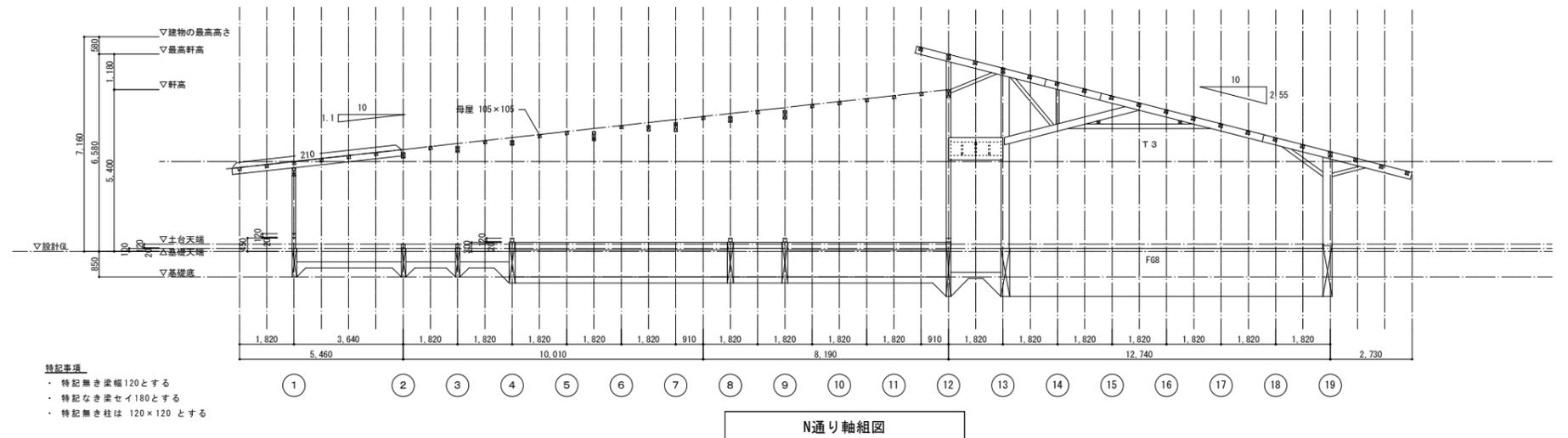
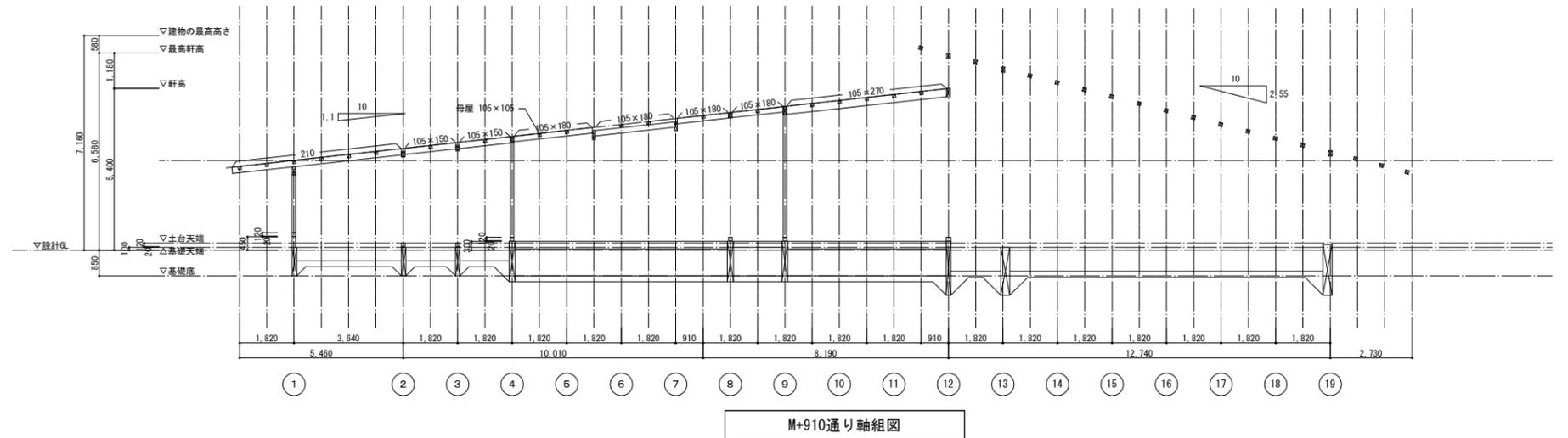
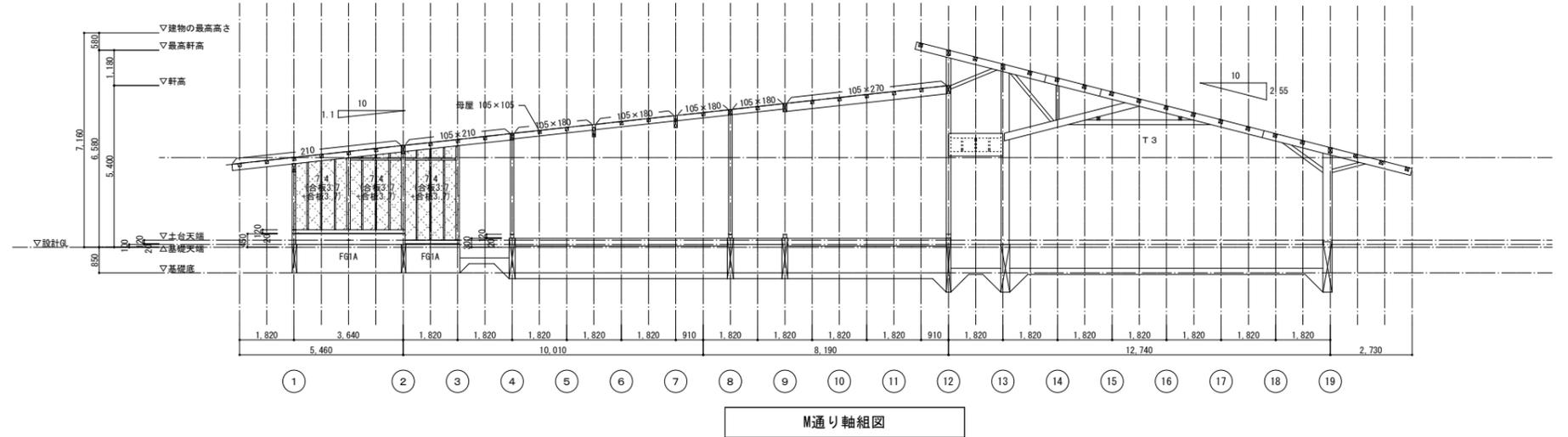
L通り軸組図



L+910通り軸組図

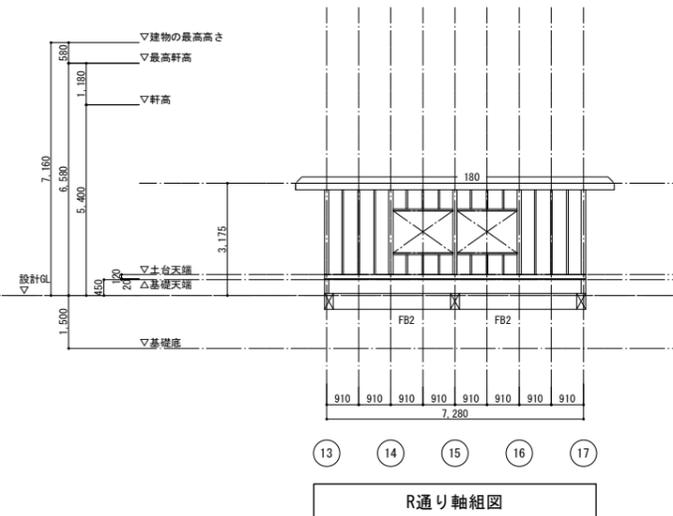
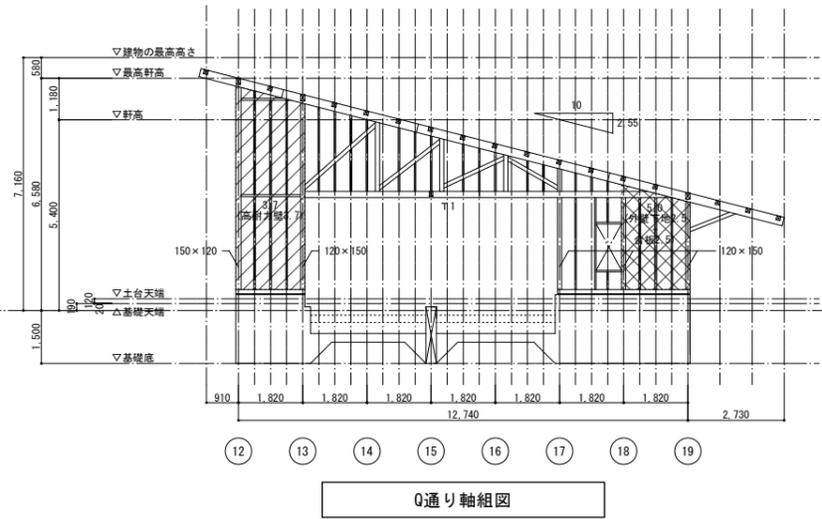
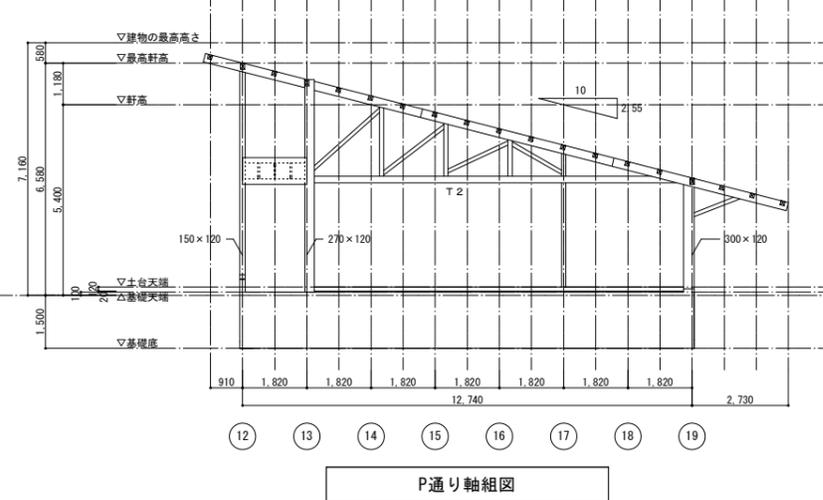
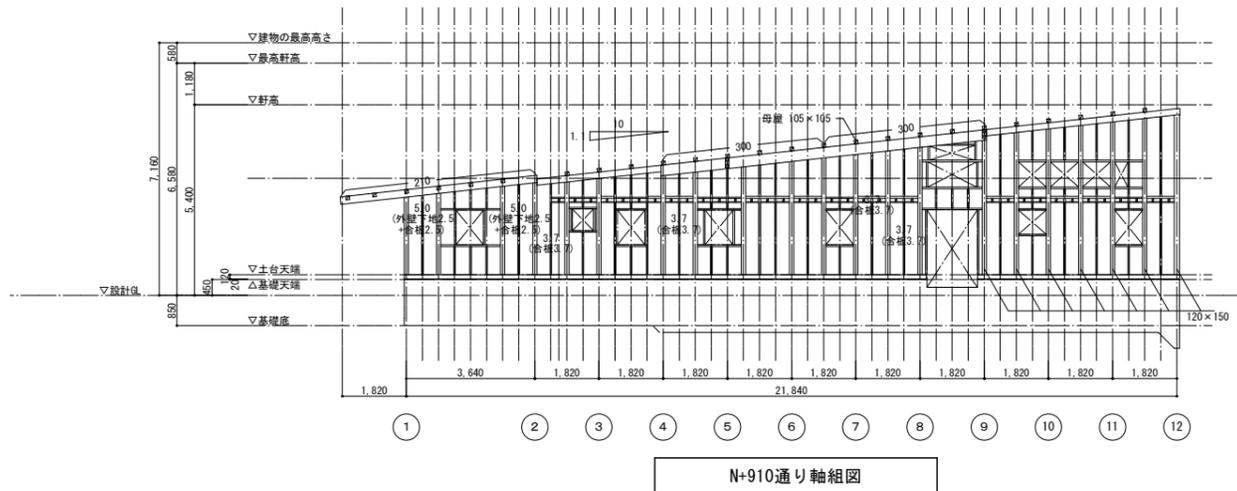
凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	7.5 (2.5 +2.5 +2)	外周部	外壁耐力下地材(火山性)3質複層板 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 片筋かい 45mm X 90mm		2.5 (2.5)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面(内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	5.0 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材(火山性)3質複層板 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)		5.0 (2.5 +2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	3.7 (3.7)	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面(内壁側) t=9 CN50(くぎの間隔75mm以下)		2.5 (2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	6.5 (2.5 +4)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面(内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 両筋かい 45mm X 90mm		-	外周部	構造用合板t=12 非耐力壁の外壁は N50又はONS0200 (外周・中間部)とする

- 特記事項
- ・ 特記無き束幅120とする
 - ・ 特記なき束セI180とする
 - ・ 特記無き柱は 120×120 とする



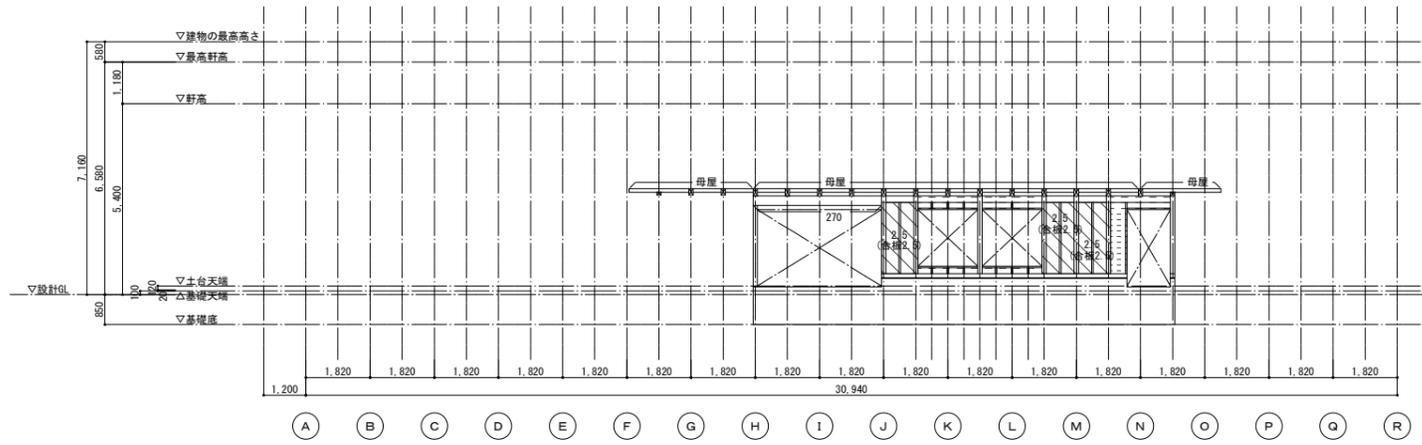
耐力壁凡例							
凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	7.5 (2.5 +2.5 +2)	外周部	外壁耐力下地材(火山性3質複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 片筋かい 45mm X 90mm		7.4 (3.7 +3.7)	内壁	構造用合板 大壁仕様両面 t=9 CN50(くぎの間隔150mm以下)
	5.0 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材(火山性3質複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)		6.0 (2.5 +2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様両面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	3.7 (3.7)	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面(内壁側) t=9 CN50(くぎの間隔75mm以下)		2.5 (2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	6.5 (2.5 +4)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面(内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 両筋かい 45mm X 90mm		-	外周部	構造用合板 t=12 非耐力壁の外壁は N50又はCN50/200 (外周・中間部共)とする
	2.5 (2.5)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面(内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)				

- 特記事項
- ・ 特記無き梁幅120とする
 - ・ 特記なき束セイ180とする
 - ・ 特記無き柱は 120×120 とする

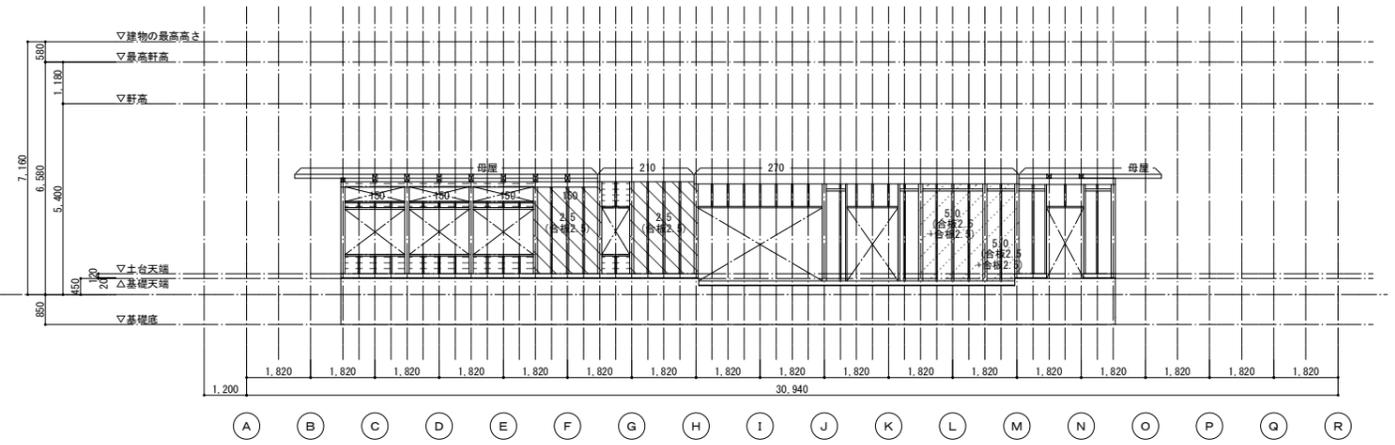


凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	7.5 (2.5 +2.5 +2)	外周部	外壁耐力下地材(火山性珪質複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 片筋かい 45mm×90mm		2.5 (2.5)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	5.0 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材(火山性珪質複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)		5.0 (2.5 +2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様両面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	3.7 (3.7)	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面 (内壁側) t=9 ON50(くぎの間隔75mm以下)		2.5 (2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	6.5 (2.5 +4)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 両筋かい 45mm×90mm		-	外周部	構造用合板t=12 非耐力壁の外壁は N50又はON50/200 (外周・中間部共)とする

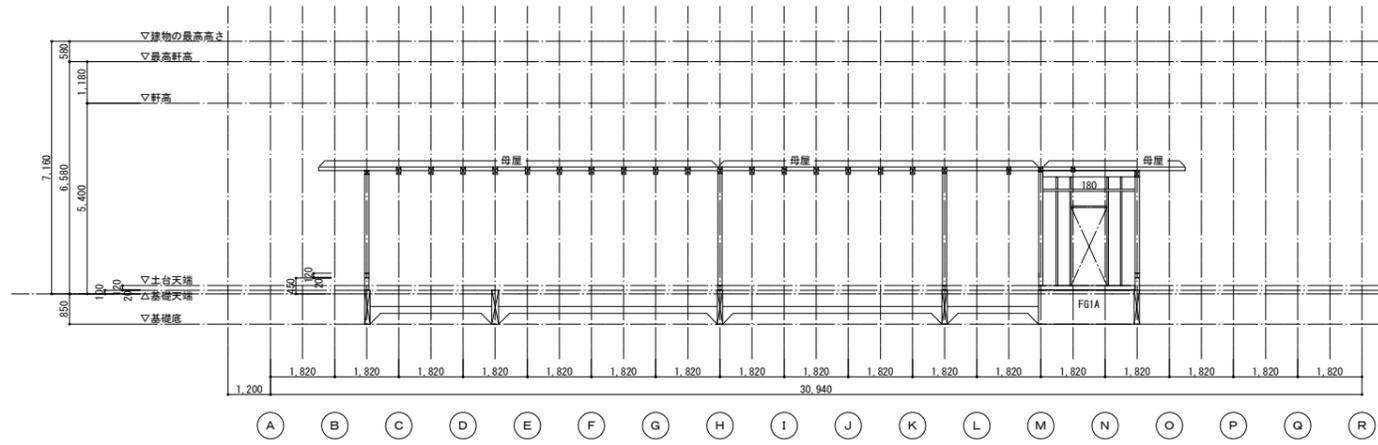
- 特記事項**
- ・ 特記無き束幅120とする
 - ・ 特記無き束セI180とする
 - ・ 特記無き柱は 120×120 とする



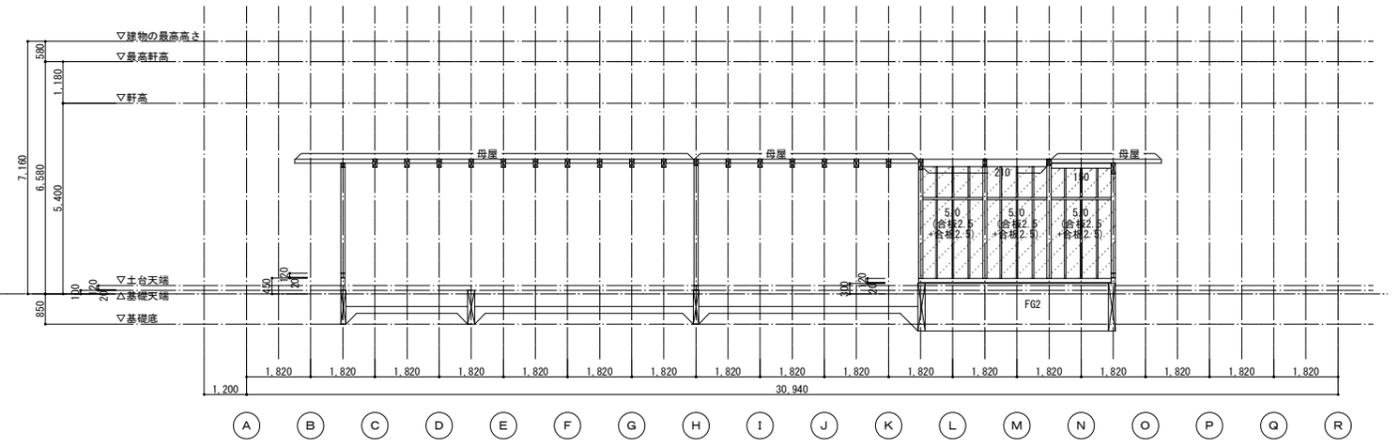
1通り軸組図



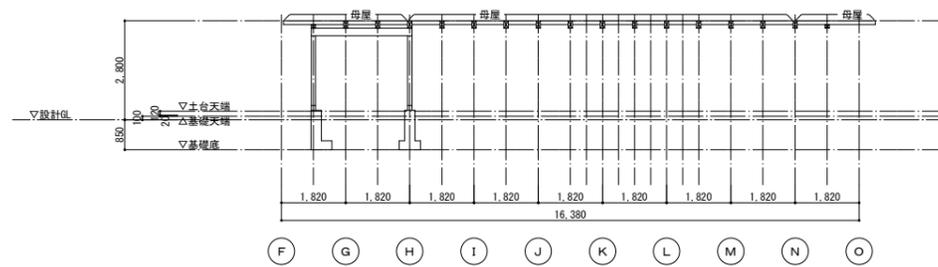
2通り軸組図



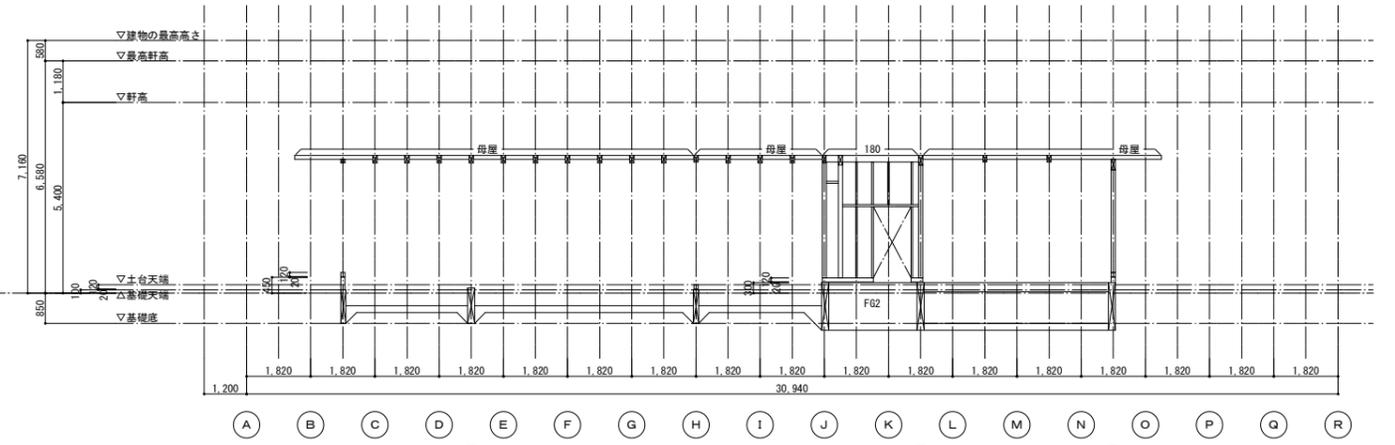
3通り軸組図



4通り軸組図



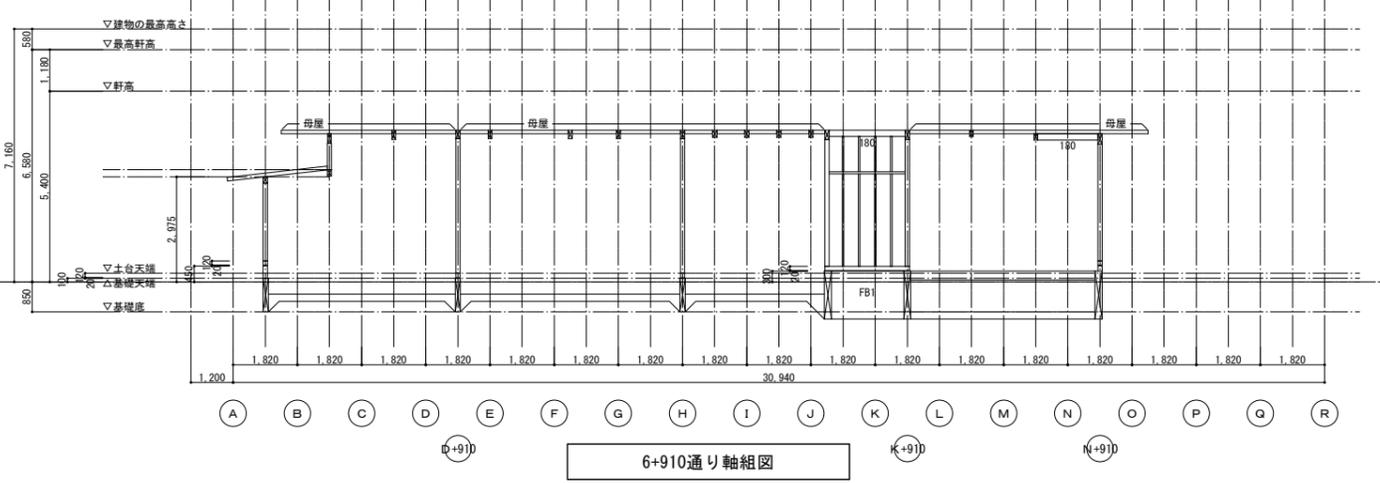
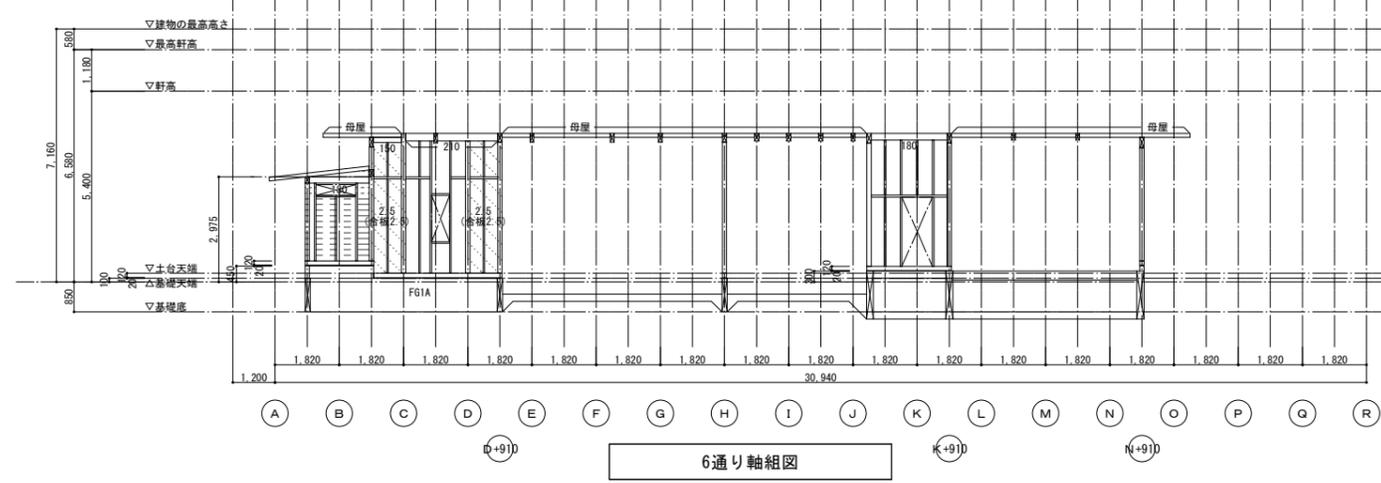
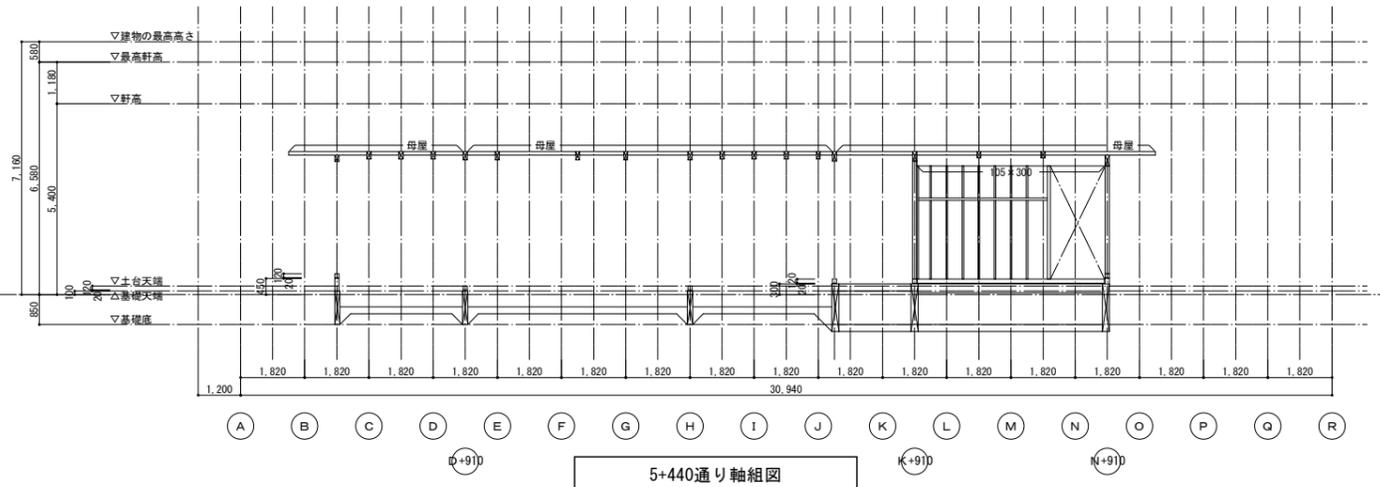
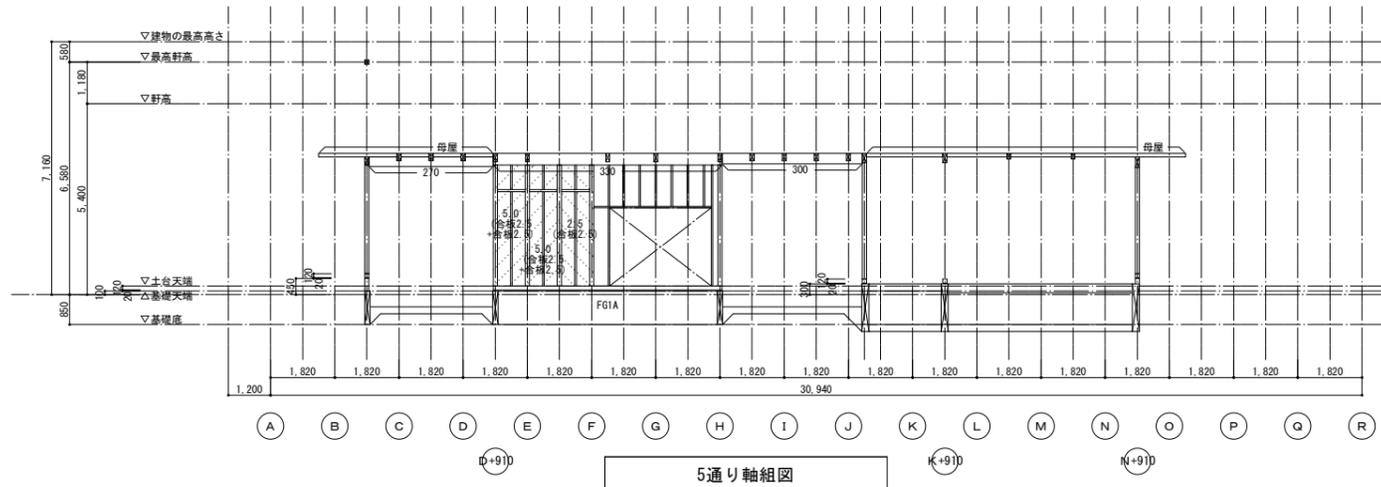
1-1820通り軸組図



4+910通り軸組図

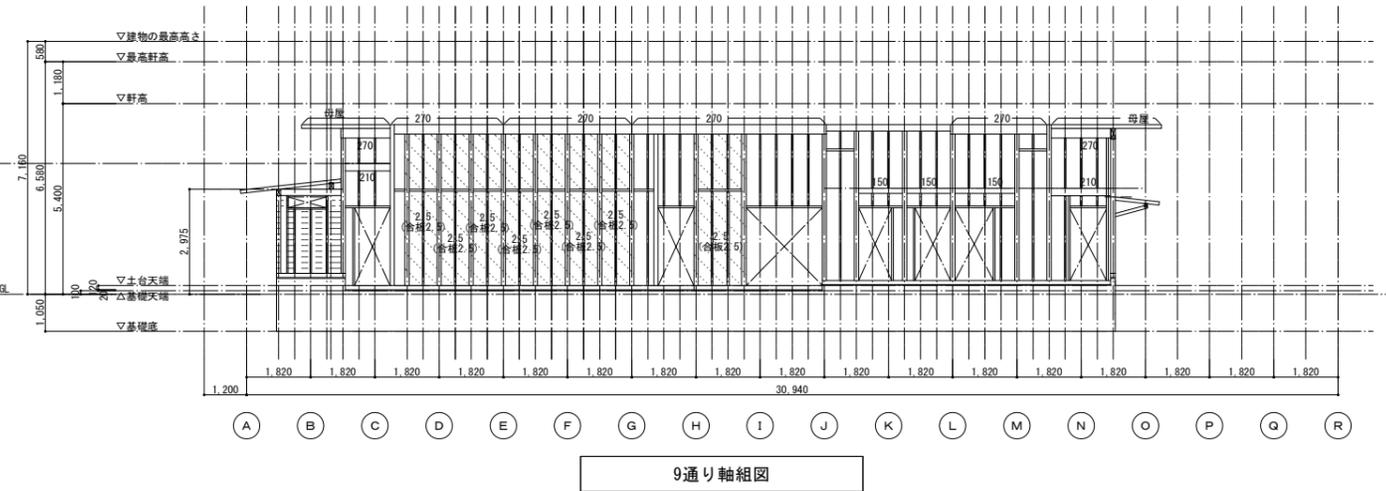
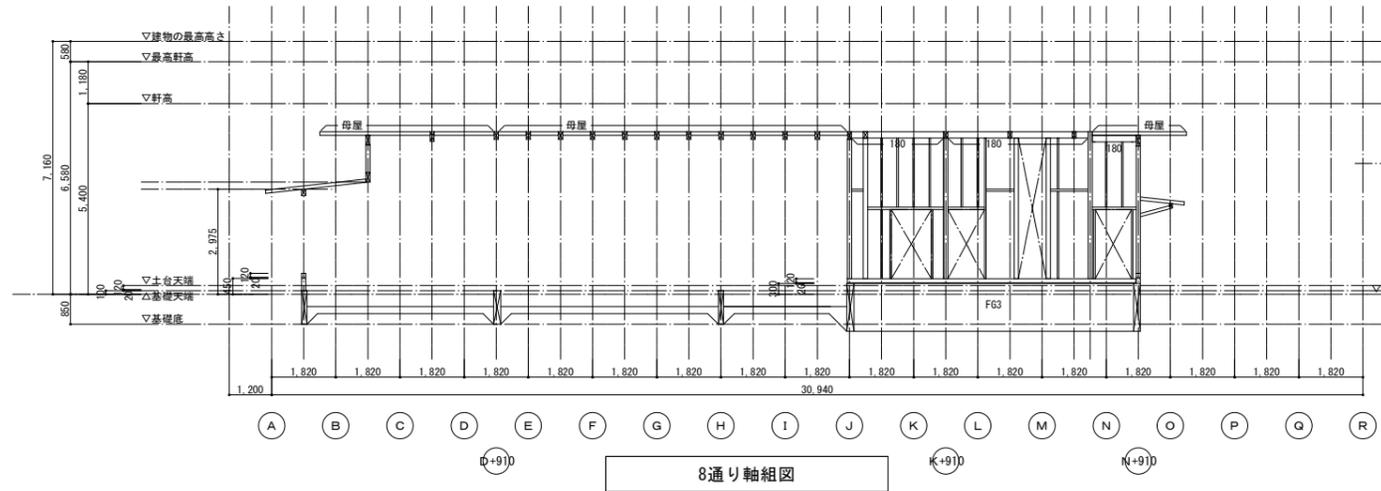
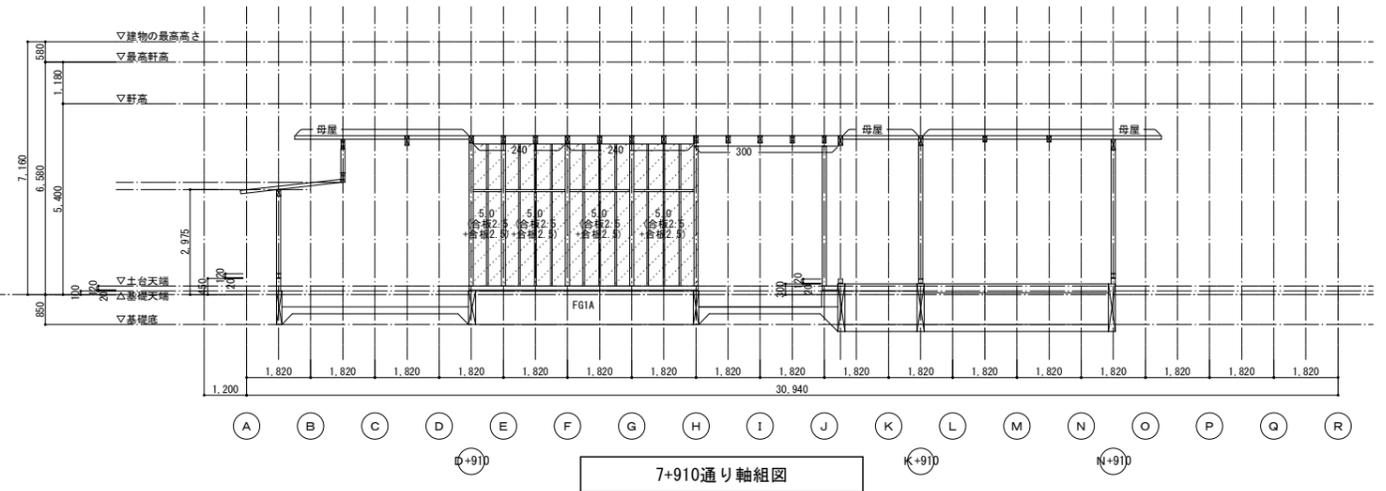
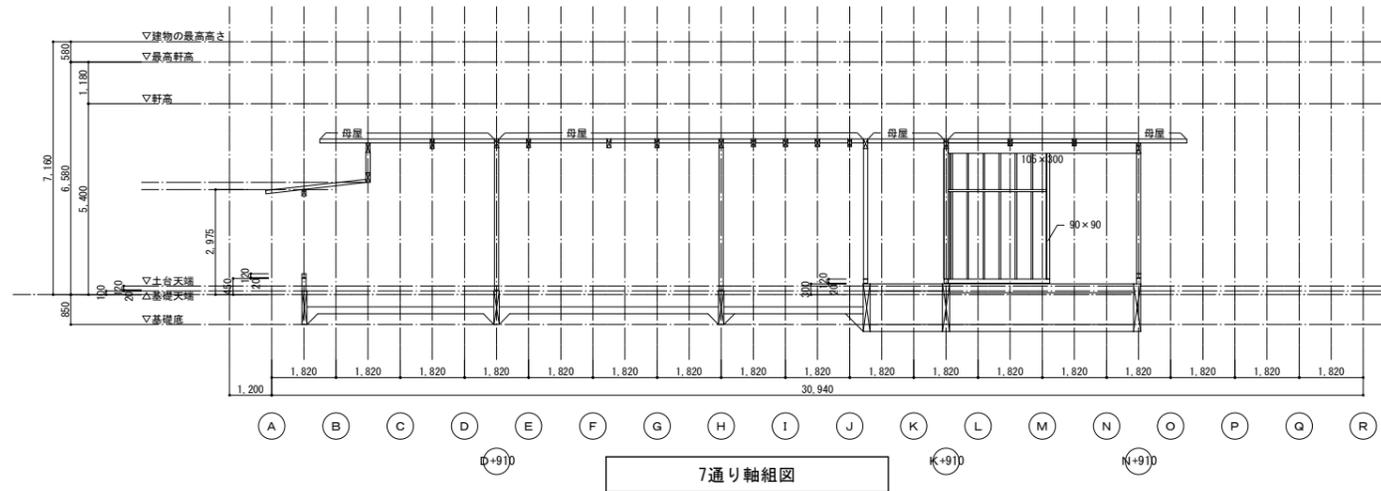
凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	7.5 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材(火山性珪質複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 片筋かゝり 45mm×90mm		2.5 (2.5)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	5.0 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材(火山性珪質複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)		5.0 (2.5 +2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様両面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	3.7 (3.7)	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面 (内壁側) t=9 ON50(くぎの間隔75mm以下)		2.5 (2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	6.5 (2.5 +4)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 両筋かゝり 45mm×90mm		-	外周部	構造用合板t=12 非耐力壁の外壁は N50又はON50/200 (外周・中間部共)とする

- 特記事項
- ・ 特記無き梁幅120とする
 - ・ 特記なき床厚180とする
 - ・ 特記無き柱は 120×120とする



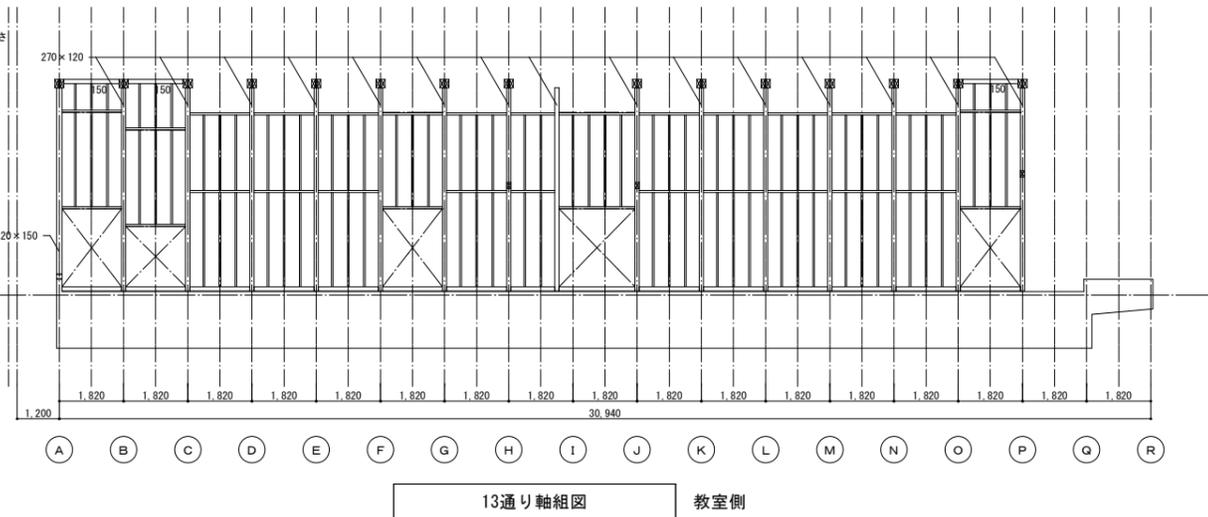
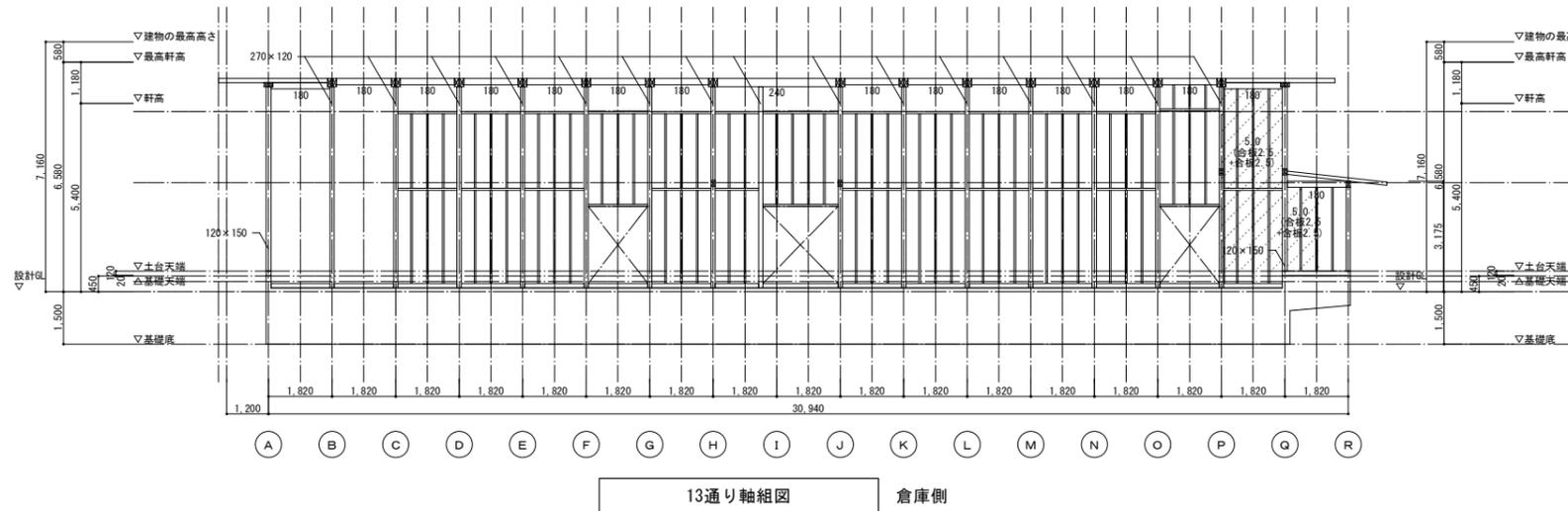
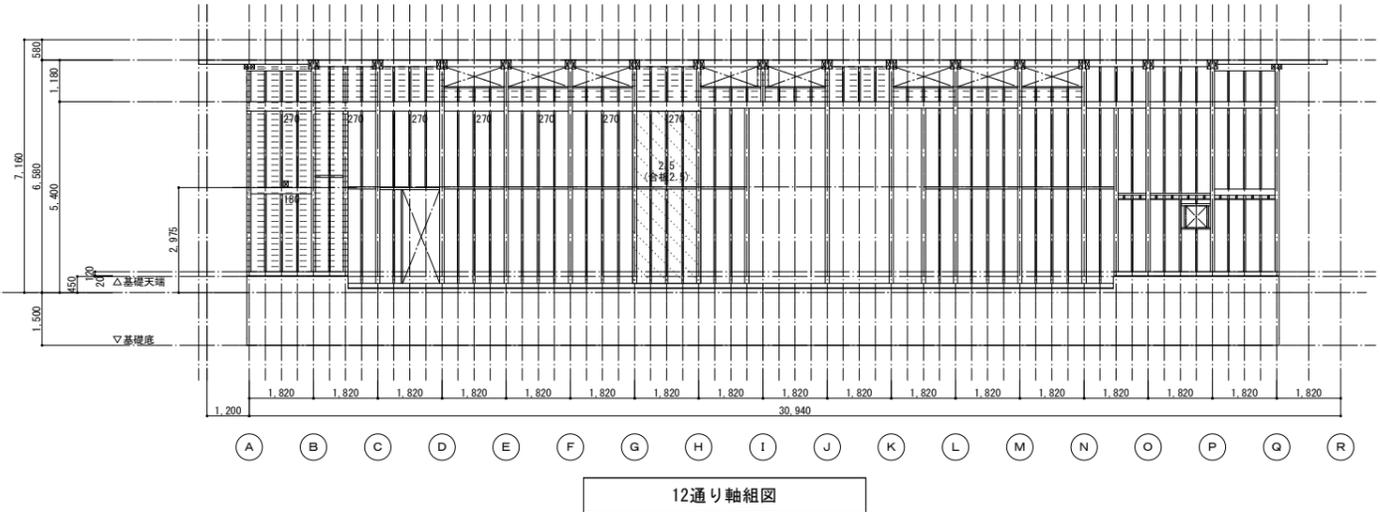
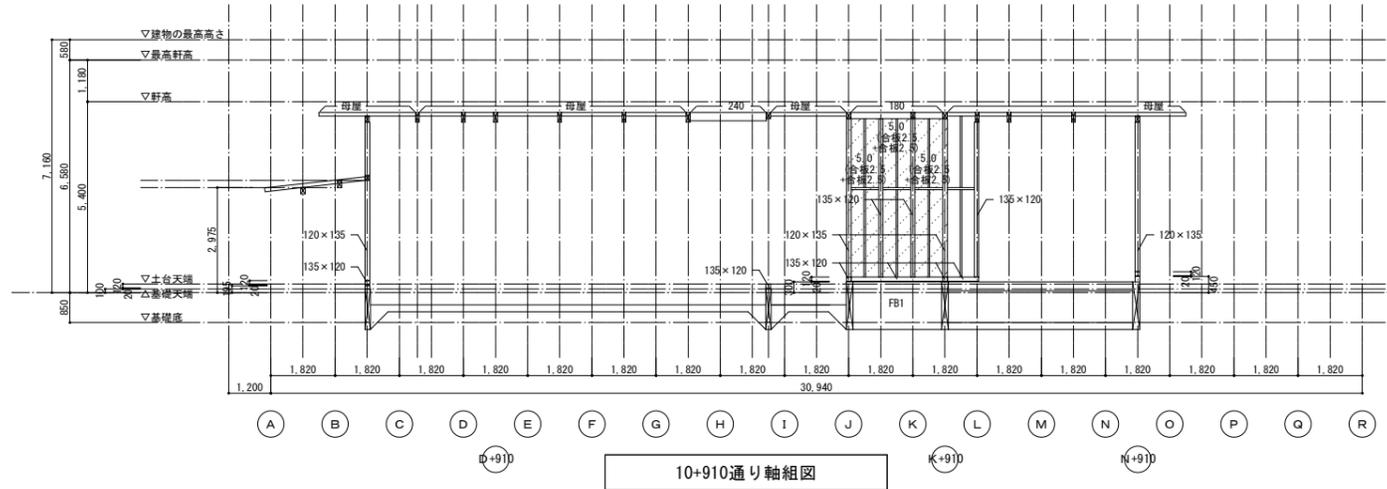
凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	7.5 (2.5 +2.5 +2)	外周部	外壁耐力下地材(火山性) 5mm厚層板 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 片筋かゝり 45mm X 90mm		2.5 (2.5)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面(内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	5.0 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材(火山性) 5mm厚層板 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)		5.0 (2.5 +2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	3.7 (3.7)	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面(内壁側) t=9 ON50(くぎの間隔75mm以下)		2.5 (2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50(くぎの間隔150mm以下)
	6.5 (2.5 +4)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面(内壁側) t=9 N50(くぎの間隔150mm以下) 両筋かゝり 45mm X 90mm		-	外周部	構造用合板 t=12 非耐力壁の外壁は N50又はON50/200 (外周・中間部共に)とする

特記事項
 ・ 特記無き梁幅120とする
 ・ 特記なき梁セI180とする
 ・ 特記無き柱は 120 x 120 とする



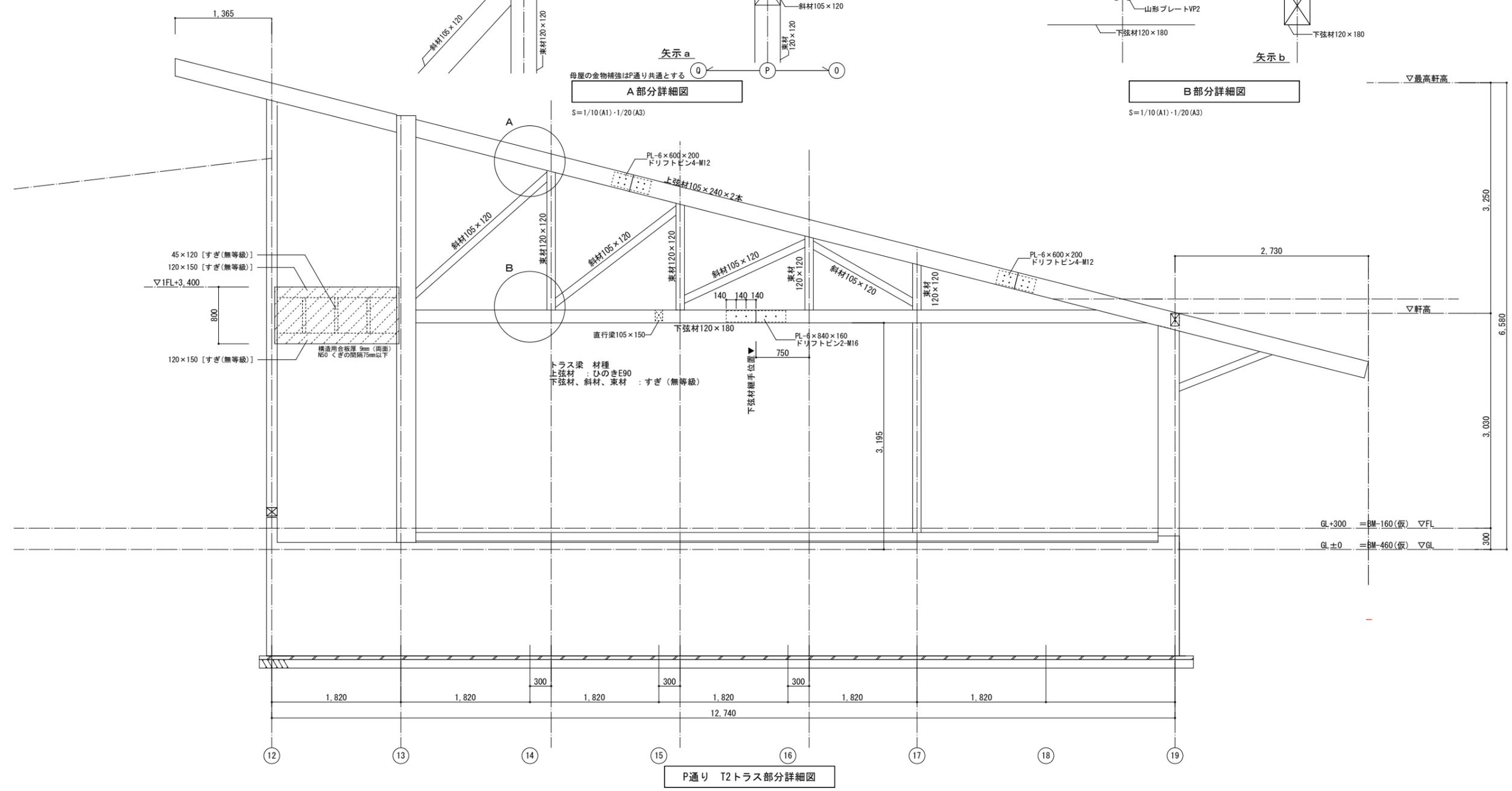
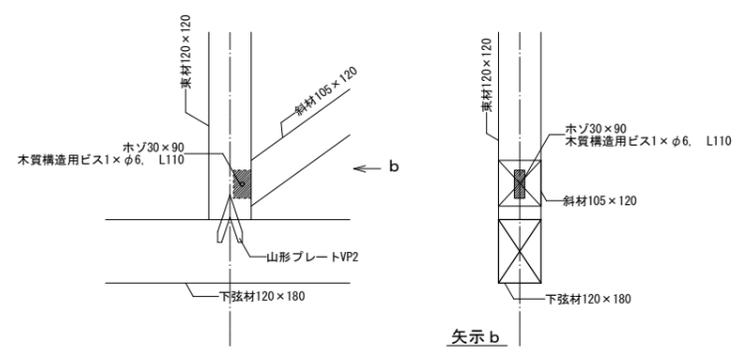
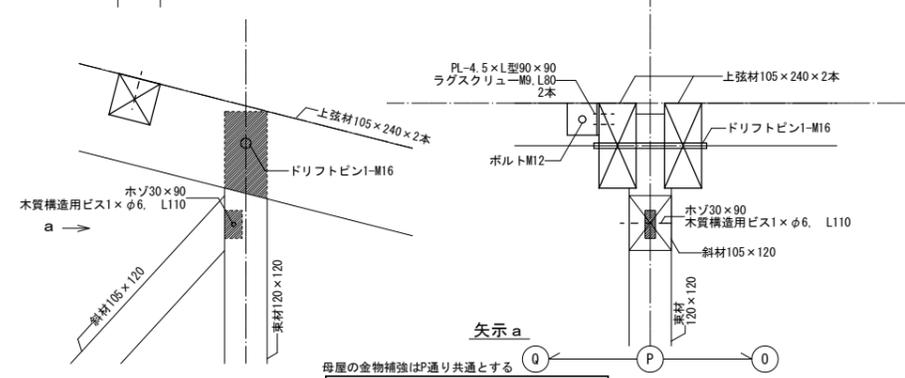
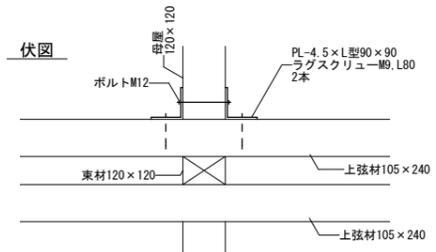
凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	7.5 (2.5 +2.5 +2)	外周部	外壁耐力下地材(火山性) 3次複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下) 片筋かゝり 45mm X 90mm		2.5 (2.5)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)
	5.0 (2.5 +2.5)	外周部	外壁耐力下地材(火山性) 3次複層板) 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)		5.0 (2.5 +2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様両面 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)
	3.7 (3.7)	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面 (内壁側) t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)		2.5 (2.5)	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)
	6.5 (2.5 +4)	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下) 両筋かゝり 45mm X 90mm		-	外周部	構造用合板 t=12 非耐力壁の外壁は N50又はCN50/200 (外周・中間部共)とする

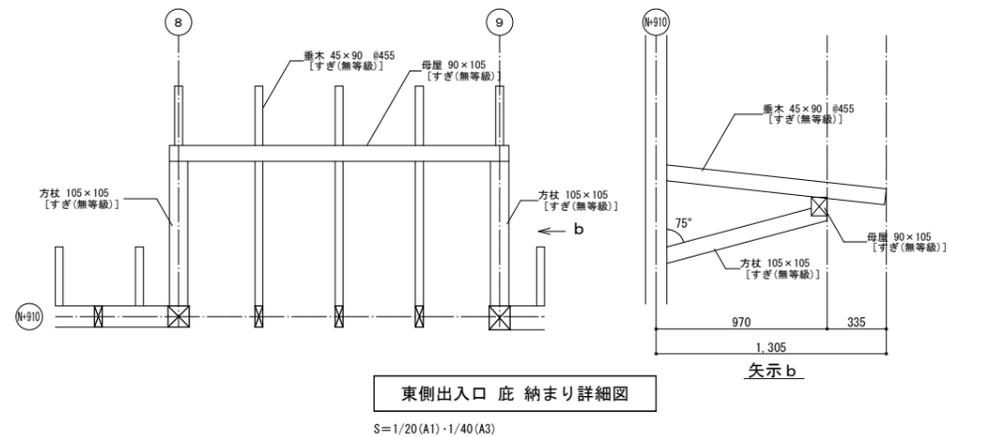
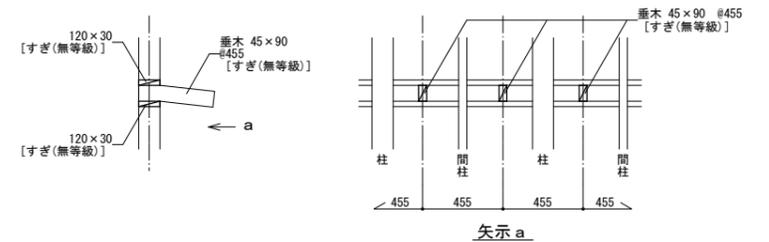
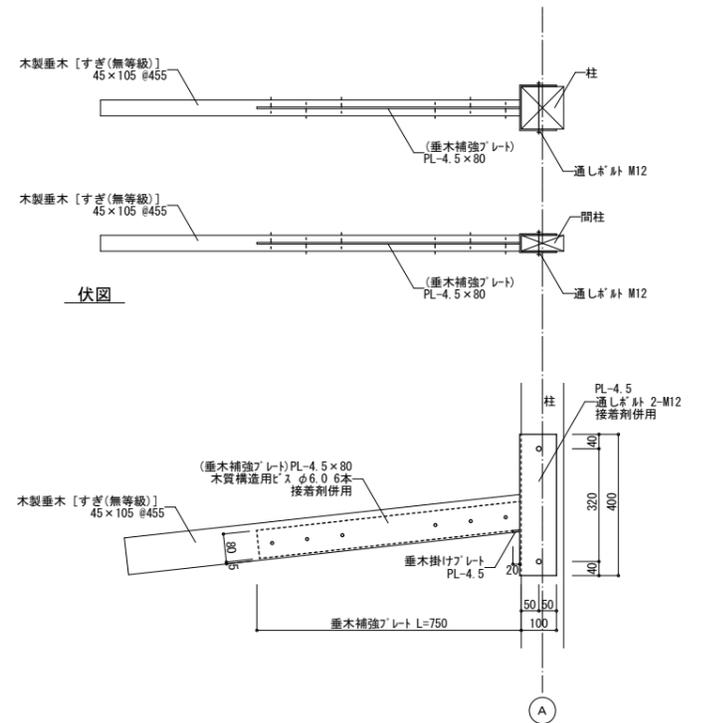
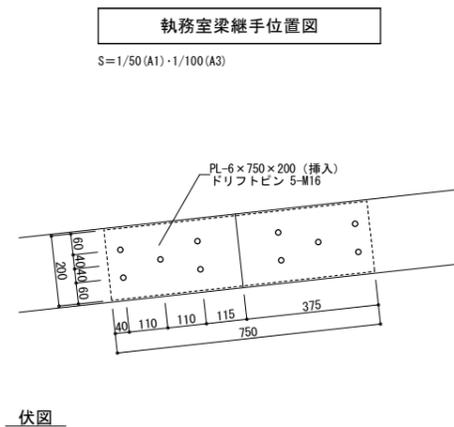
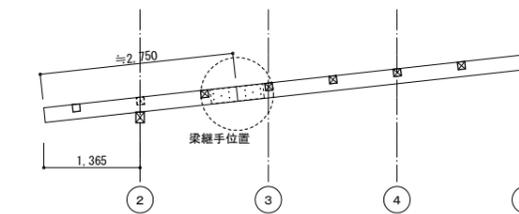
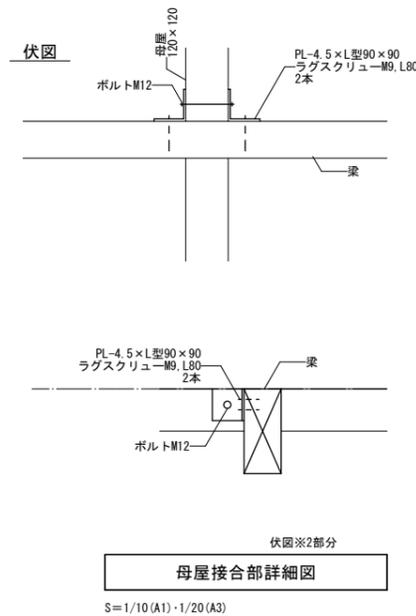
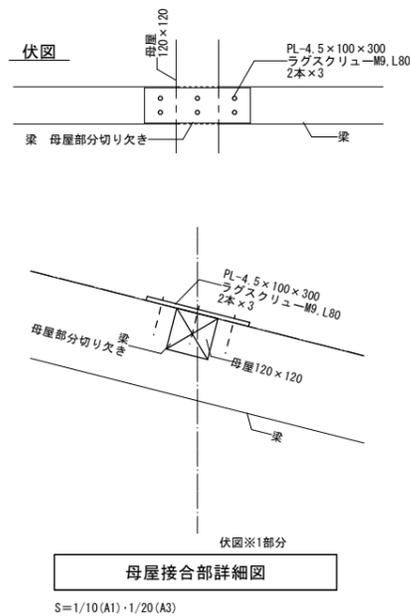
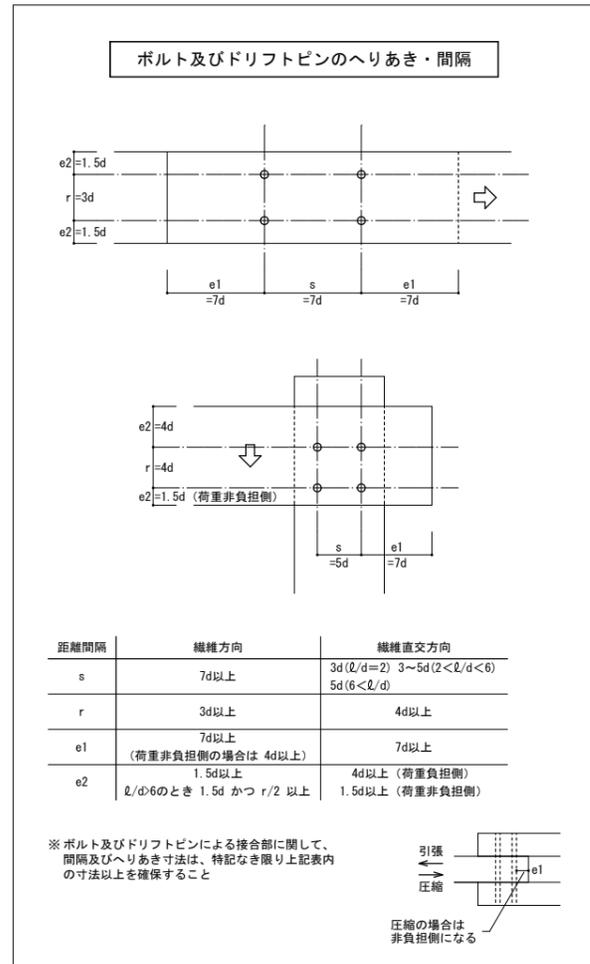
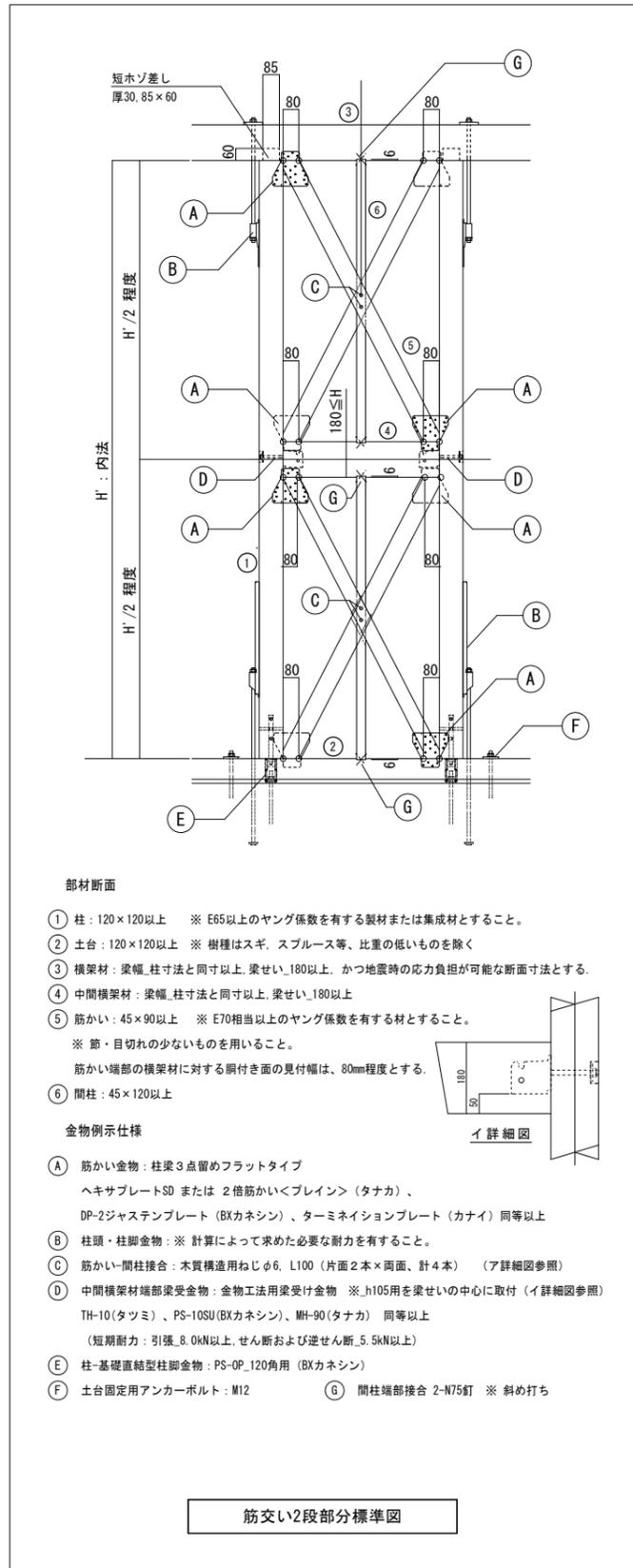
- 特記事項**
- ・ 特記無き梁幅120とする
 - ・ 特記無き梁セイ180とする
 - ・ 特記無き柱は 120×120 とする

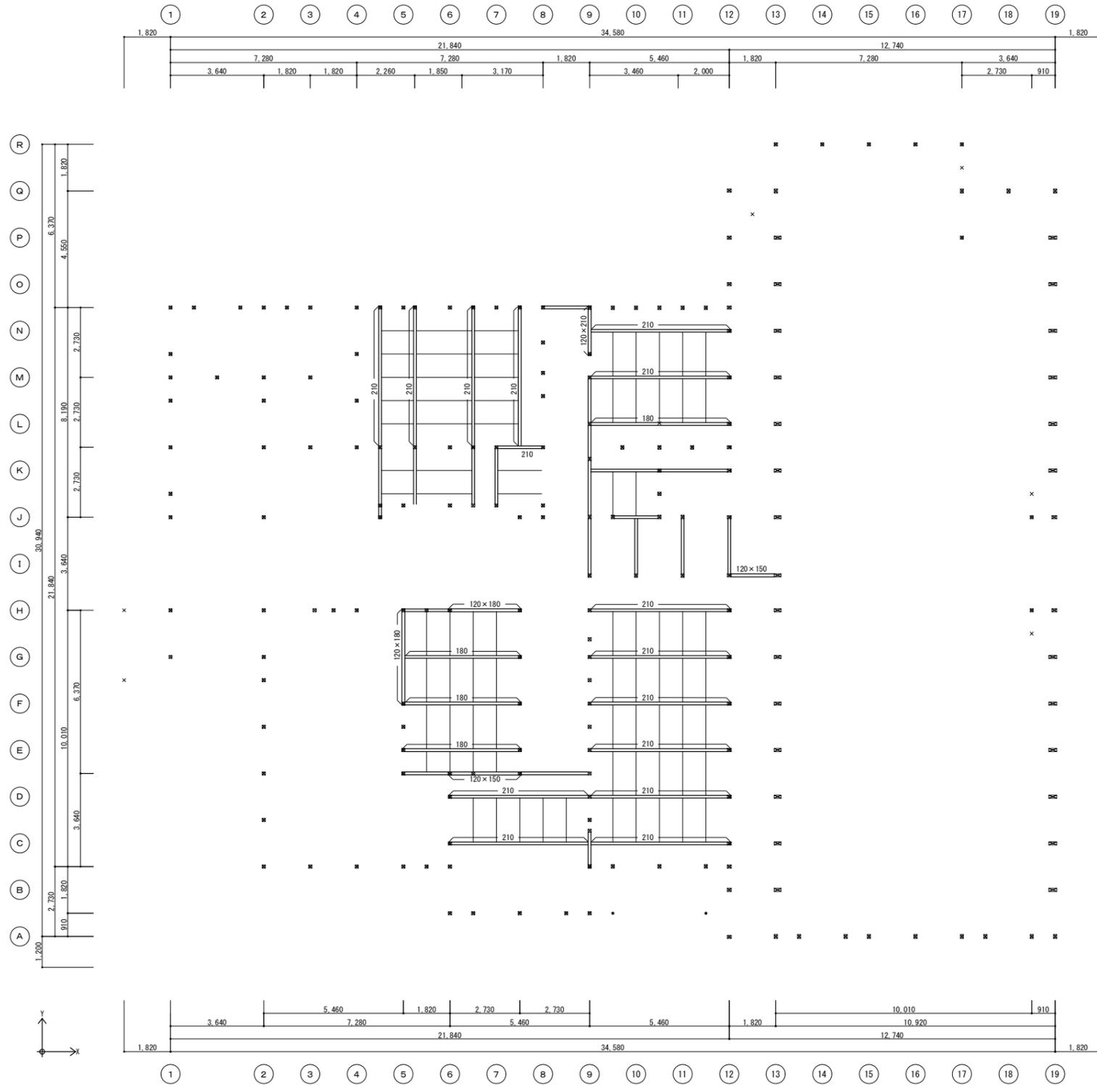


凡例	倍率	位置	仕様	凡例	倍率	位置	仕様
	5.0	外周部	外壁耐力下地材(火山性)3A質複層板 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下) 片筋かゝり 45mm X 90mm		2.5	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)
	5.0	外周部	外壁耐力下地材(火山性)3A質複層板 大壁仕様 内壁 構造用合板 大壁仕様 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)		5.0	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)
	3.7	外周部	構造用合板 大壁高耐力仕様片面 (内壁側) t=9 CNS0 (< ぎの間隔75mm以下)		2.5	内壁	構造用合板 大壁仕様片面 t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下)
	2.5	外周部	構造用合板 大壁仕様片面 (内壁側) t=9 N50 (< ぎの間隔150mm以下) 両筋かゝり 45mm X 90mm		-	外周部	構造用合板t=12 非耐力壁の外壁は N50又はCNS0/200 (外周・中間部共)とする

- 特記事項
- ・ 特記無き束幅120とする
 - ・ 特記なき束セI180とする
 - ・ 特記無き柱は 120x120 とする







梁の特記事項

- ・ 特記なき梁はすぎ（無等級）とする
- ・ 特記なき梁セイ150とする
- ・ 特記なき梁幅105とする

— : 45×90 #910 すぎ（無等級）とする

柱の特記事項

× : 1階柱を示す

天井部分水平梁伏図
S=1/100(A1)-1/200(A3)